

平成 26 年度  
教育行政の執行状況に関する点検評価報告書  
(平成 25 年度事業対象)

夕張市教育委員会

## 目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の基本方針	2
3	事業評価の判断基準	3
4	評価委員会の設置	3
5	評価委員会のまとめ	3
6	点検評価の結果	
(1)	安全安心な通学体制の整備	4
	①スクールバス運営 ②遠距離通学支援 ③児童生徒通学安全対策（添乗員の配置） ④小中学校通学費補助（定期券代） ⑤児童見守りサービス	
(2)	地域全体で学校を支える体制の充実	10
	①学校支援地域本部事業 ②夕張市小中学校サポート会議 ③夕張高等学校対策委員会	
(3)	小・中学校教育の充実	14
	①生徒指導対策 ②ことばの教室運営 ③障がい児教育促進協議会補助 ④総合的学習実践 ⑤中学校体育大会開催 ⑥特別支援学級運営 ⑦外国語指導充実 ⑧地域ICT活用 広域連携（デジタル教材） ⑨特別支援教育支援員配置事業 ⑩小学校学力向上事業 小中学校図書充実	
(4)	学校施設設備の整備	26
	①小中学校校舎維持補修 ②小中学校教材教具整備 ③小中学校管理業務 ④小中学校パ ソコン整備 ⑤中学校屋外貯蔵タンク設置	
(5)	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	32
	①小学校給食運営 ②中学校給食運営 ③中学校給食業務 ④児童・生徒の健康管理	
(6)	幼稚園教育の充実	37
(7)	文化振興	38
	①児童生徒鑑賞教室 ②美術品管理事業 ③公民館事業 ④ふるさとギャラリー事業 ⑤生 涯学習プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業 ⑥文化財保護事業 ⑦図書コーナ ー事業	
(8)	スポーツの振興	46
	①文化スポーツセンター管理 ②平和運動公園管理 ③体育施設管理 ④清水沢プール管理	
7	資料	51
	・平成26年度夕張市教育行政評価実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱 ・夕張市教育行政評価委員会実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会開催経過 ・平成25年度夕張市教育行政執行方針	

## 1 はじめに

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条に基づき、毎年事務の管理と執行状況について点検評価し、その結果報告書を議会に提出するとともに、市民に公表しなければなりません。

本報告書は夕張市教育委員会が行った平成25年度の主な事業について自らが点検評価すると共に、その客観性を確保するため市内の学識経験者で構成する夕張市教育行政評価委員会の評価と意見を付して結果をまとめたものです。

平成25年度は中学校が1校化となって4年、小学校は1校となって3年が経過し、地域の方々との連携と協働を通し、夕張ならではの新しい学校づくりを進めるため、また、幼・小・中・高の学校間連携を進めるために「夕張市小中学校サポート会議」、「夕張市学校連携協議会」や「夕張市特別支援教育連携協議会」の機能を活用し、各学校間の情報の共有化を図ってきたほか、夕張市としてより良い高等学校の在り方、方向性を考えるため「夕張高等学校対策委員会」も設置してまいりました。

また、市民一人ひとりが豊かな文化やスポーツに親しみ、生きがいをもって生活できる生涯学習社会を展望し、文化団体、体育団体、各種市民団体やサークル等と連携し、市民の協力と協働の力により様々な社会教育事業を進めてまいりました。

以下は平成25年度に教育委員会が行った、主な事業8項目についてのまとめです。

### (1) 安全安心な通学体制の整備

市内全域が学校区となったことに伴い、児童生徒の安全安心な通学体制を確保するため、学校、家庭、バス会社、市民ボランティアなどとの連携体制や、バス添乗員の配置、児童見守りシステムなどソフト面の整備充実に努めてまいりました。

今後新たに生じる課題については「夕張市通学方法等検討委員会」の機能を十分に活用し、必要な見直しを行うとともに、通学路の安全確保やバス停車帯など交通安全施設の設置について引き続き関係機関に要望してまいります。

### (2) 地域全体で学校を支える体制の充実

小中学校の1校化による夕張ならではの新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するため夕張市全体で学校を支援する活動や、地域に開かれた学校づくりを進めるため、学校支援地域本部事業の充実に努めるとともに、夕張市小中学校サポート会議については学校と保護者、地域を結び開かれた学校づくりを進めてきました。

また、夕張市としてより良い高等学校の在り方、方向性を考えるため夕張高等学校対策委員会も設置してきたところであります。

### (3) 小・中学校教育の充実

小中学校1校体制のもと、新しい学校づくりを展望するうえで学ぶことに楽しさや成就感を持ち、基礎的な力を着実に定着させる学習指導と活力に富む諸活動の充実を図るため、小学校における学力向上事業や中学校におけるデジタル教材の活用、総合的学習実践、外国語指導充実、特別支援教育の充実などの諸事業を進めてまいりました。

また、学校図書館の機能向上を図るため、図書の購入を行ったところであります。

#### (4) 学校施設設備の整備

教材・教具、学校備品等教育条件整備と校舎の維持補修については、児童生徒の学習活動に支障が生じないよう整備に努めてまいりました。

#### (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

児童生徒の健康管理については、学校医や養護教諭と連携し、学校保健法に基づく必要な検査等を行い、疾病の早期発見に努めるとともに、インフルエンザ等感染症については関係機関と連携し感染拡大の予防に努めてまいりました。

学校給食については、児童生徒の発達段階に即した給食の充実を図るため、食に対する指導と実践を通じ、食育の充実と保健所など関係機関と連携し、食中毒など給食事故の未然防止に努めてまいりました。

#### (6) 幼稚園教育の充実

創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、小学校、保育園、福祉施設などとの交流や外国語指導助手（ALT）による英語遊び、野菜栽培による食育教育の充実など魅力ある幼稚園づくりに努めてまいりました。

また、遊具の一部更新も行ったところであります。

3・4歳児の混合保育については、幼児の数が減少する中、園児の確保に大きな成果を上げています。

#### (7) 文化振興

市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れるよう、公民館事業、生涯学習プロジェクト事業、ふるさとギャラリー事業など、市民ボランティアや道教育大学岩見沢校との協働の力を通し生涯学習の機会を提供してまいりました。

また、美術品については、良好な環境で収蔵するための空調設備を設置したほか、ふるさとギャラリーでの展示など、公開、活用を行ってまいりました。

児童生徒鑑賞教室については、子ども達の豊かな情操を育む目的で小・中学校において実施し好評を得ております。

#### (8) スポーツ振興

子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、各スポーツ施設について利用者の利便性を考慮しつつ合理的な運営に努めました。

また、これらの施設において開催されるスポーツ大会等の実施にあたっては、必要な支援協力をを行う中で、スポーツの振興と施設の有効活用を図り、地域活性化の一助ともなっております。

## 2 点検評価の基本方針

### (1) 目的

夕張市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

### (2) 点検評価の対象及び方法

点検評価の対象は、平成 25 年度予算に計上し実施した教育委員会所管の主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価を行いました。

### 3 事業評価の判断基準

- 達成度
  - A 事業が十分に達成された（9割以上）
  - B 事業が相当程度達成された（7割～8割）
  - C 事業の達成度がやや不十分である（5割～6割）
  - D 事業が達成されなかった（5割以下）
- 事業効果
  - A 十分な事業効果が得られた（9割以上）
  - B 相当程度の事業効果が得られた（7割～8割）
  - C 事業効果がやや不十分である（5割～6割）
  - D 事業効果が不十分である（5割以下）

### 4 評価委員会の設置

教育委員会が行った点検評価の客観性を確保するため、夕張市教育行政評価委員会を設置し、教育に見識を有する方 5 名のご意見と評価を頂きました。

- 評価区分
  - A 順調 順調に事業が達成されている（9割以上）
  - B ほぼ順調 概ね順調に事業が達成されている（7割～8割）
  - C 努力を要する 事業の達成度が不十分（7割以下）

### 5 評価委員会のまとめ

教育行政全般について言えることであるが、大変な苦勞と努力が認められる。中でも予算の執行に当たっては、財政再生団体であるがゆえの苦勞も大いにかがえる。

夕張市においては、現状高齢化に加え少子化が進んでおり、今後もこの傾向は続くものと見込まれるが、広い視野で状況を把握し、着実に業務を遂行することは下より、創意工夫により教育行政推進に努めていただきたい。

学校教育関係については、故郷夕張に誇りを持てるような学校づくり、教育の充実に力を傾注願いたい。また、幼児教育については今後の状況を踏まえ、市全体での協議を進めていただきたい。

社会教育関係については、市民全体が歴史ある夕張の文化活動に誇りを持ち、自らが活動できるよう各団体と連携した事業の展開を推進願いたい。また、高齢者の知恵を利用した生涯学習などにも目を向けて行ってほしい。

いずれにしても、地域と行政が一体となった教育行政の推進が必要不可欠であり、より一層の努力を期待するものであります。

なお、平成 25 年度教育委員会事業の個別評価及び意見については、4 頁以降の教育行政点検評価表（総括表）に記載しました。

## 平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育	
目的及び概要	小・中学校が各1校となった現在、約65%の児童生徒が路線バスなどを利用して通学しているため、事故なく安全に通学できるよう、学校支援ボランティアや市民団体等との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面における安全安心対策の充実を図る。				
平成25年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) スクールバス運営	5,017	5,017	0	
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	1,172	921	251	
	(3) 児童生徒通学安全対策事業(バス添乗員)	153	114	39	
	(4) 小・中学校通学費援助(定期券代)	20,403	19,168	1,235	
	(5) 児童見守りサービス	1,260	1,260	0	
事業実績及び効果	別紙(細目) (1)～(5)に記載				
課 題	別紙(細目) (1)～(5)に記載				
今後の方向性	安全安心な通学体制の整備は、小・中学校の統合により生じた事業であり、新たに生じた課題については随時必要な見直しを行う。 できるかぎり保護者の生の声を聴くとともに、通学に関わる関係者で構成する夕張市通学方法等検討委員会において、課題の共通理解とその対応策について協議を行っていく。 また、学校、バス会社、教育委員会の連携を強化していく。				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	本事業は、平成21年度から取り組みを始め、中学校を1校化した平成22年度から運用を開始し、平成23年度の小学校1校化により全面運用している。 ハード・ソフト両面の安全・安心対策についてはほぼ形が出来上がり、大きな混乱もなく順調に進んでいるが、今後事業を進める中で生じる新たな課題は、事業内容を検証しながら必要に応じ見直しを行うと共に、児童生徒の安全・安心の確保を最優先に考え、信号機やバス停車帯の設置などの継続した要望活動を行う。 また、各バス停などにおける学校支援地域本部を中心とした児童見守り体制もボランティアの協力により確立されてきてはいるものの、高齢化に伴う減少が懸念され、新しい人材の確保が課題である。			
A	B				
評価委員会の評価判定及び意見					
判定	児童生徒の安全安心な通学の確保のため市内各バス停に見守りボランティアを配置するなど、他の市町では実施されていない素晴らしい取り組みが行われている。また、バスの乗車マナーや乗降時の安全指導については、年度当初に添乗員が、学期初めには市教委職員や学校職員が添乗し指導に当たっている。さらに、安全安心な通学体制の確保と円滑なバス運行のため、保護者・学校・バス会社、市教委などの関係者の協議の場である「夕張市通学方法等検討委員会」が設置され、一定の機能を果たしていることも評価できる。バスの安全な乗降や乗車マナーについても、三者の円滑な連携が重要と考える。今後も通学の安全安心の確保と、より良いバス運行に努めていただきたい。重大事故につながる事例もあり、ボランティアだけでなく関係者の日常的な安全点検が必要である。				
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張市通学方法検討委員会の設置は妥当と考える。見守りボランティアの方々のご意見や添乗指導した結果について、その都度学校と情報を交換することが指導の徹底につながることから、交流の持ち方について検討を要する。</li> <li>また、人材の確保・養成は喫緊の課題であり、有効な計画を立て推進することが必要である。</li> <li>・児童生徒とりわけ小学校1年生の安全安心な通学のため、今後も必要に応じて教職員や市教委職員、ボランティアによるバス添乗が必要である。</li> <li>・通学の安全確保のため、バス停や歩道の整備、信号機などの設置について、引き続き関係機関に要請する必要がある。</li> <li>・校外学習の重要性から、スクールバスのより利用しやすい柔軟な運行が求められる。</li> <li>・児童見守りサービスについては、利用者拡大のための方策を講じる必要がある。</li> <li>・バス停付近など関係者による安全点検を実施する必要がある。(冬期間が特に重要)</li> <li>・登下校情報確認及び一斉同報サービスについては、昨今の社会情勢からも利用拡大が必要であり、希望者全員が参加可能にすると共に、児童・生徒の安全上必要な情報を届けられるように整備する必要がある。</li> </ul>				

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育														
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)														
	(1) スクールバス運営	5,017	5,017	0														
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>平成22年度の中学校統合及び平成23年度の小学校統合に伴い、南部地区児童生徒の登校便1便及び富野地区等児童生徒の下校用として5便のスクールバス運行をバス会社に委託している。また、学校行事等に伴う児童・生徒送迎用としても活用している。</p> <p>平成25年度実績</p> <table border="0"> <tr> <td>南部登校便～ゆうばり小学校</td> <td>206日</td> <td>206回</td> </tr> <tr> <td>南部登校便～夕張中学校</td> <td>204日</td> <td>204回</td> </tr> <tr> <td>ゆうばり小学校下校便～富野</td> <td>206日</td> <td>332回</td> </tr> <tr> <td>夕張中学校下校便～富野</td> <td>204日</td> <td>559回</td> </tr> </table> <p>○効果</p> <p>小中学校の1校化により、全児童生徒の約64%がバス通学しているが、円滑な通学を確保するためには、路線バスを中心としながらも、スクールバスの果たす役割は大きいものがある。</p> <p>平成23年度の小学校統合により夕張中学校及びゆうばり小学校に通学する、南部地区の児童・生徒の登校便（下校は路線バス）として、また、富野地区の児童・生徒の下校用（登校は路線バス）として、悪天候時においても確実に運行している。</p> <p>また、登下校のみに縛られず、小・中学校の行事等において柔軟に活用することで、学校教育活動の幅を広げることが期待できる。</p>						南部登校便～ゆうばり小学校	206日	206回	南部登校便～夕張中学校	204日	204回	ゆうばり小学校下校便～富野	206日	332回	夕張中学校下校便～富野	204日	559回
	南部登校便～ゆうばり小学校	206日	206回															
南部登校便～夕張中学校	204日	204回																
ゆうばり小学校下校便～富野	206日	332回																
夕張中学校下校便～富野	204日	559回																
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の単独費用で運行委託しているため、安定した財源の確保と、将来的な車両更新費用の確保が必要となる。</li> <li>・スクールバスは路線バスの運行とリンクした運行形態となるため、学校及びバス会社との密な連携を要するため、その業務に精通した人材の確保が必要となる。</li> <li>・様々な教育ニーズに対応するため、夕張市全体の教育活動に広く利用できるような運行方法や財源の確保が求められる。</li> </ul>																	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスを利用する児童生徒の居住地等に大きな変動がない間は、南部地区に居住する児童生徒の登校便として、また、富野地区に居住する児童生徒の下校便として活用する。</li> <li>・スクールバスの運行にあたっては、年間学校行事等を踏まえ、学校及びバス会社との連携を密にし合理的な運行に努めるとともに、幅広い教育活動への利活用を検討していく。</li> </ul>																	
教育委員会の自己評価																		
事業達成度	事業効果	<p>平成23年度以降は小学校統合により、路線バスを中心とした通学体制を取っているが、富野地区児童の下校時における若菜ターミナルでの乗換え対策の為に、スクールバスの活用は不可欠なものである。また、小・中学校の行事等における、バスダイヤに縛られない柔軟な運行も期待できることから、今後も安定的かつ継続した事業実施が必要である。</p>																
A	B																	

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) 遠距離通学支援(タクシー運行委託)	1,172	921	251		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>バス通学を要する距離に居住しているものの、バスでの通学が困難な特別な支援を要する児童生徒等のためタクシーを借上げ送迎することにより、安全かつ確実な通学を確保するもの。</p> <p>平成25年度実績</p> <p>登川方面 小学生4名 204日 430回</p> <p>本町方面 小学生2名・中学生1名 205日 405回</p> <p>○効果</p> <p>対象の児童生徒の教育活動に支障が出ることなく、事故なく安全に登下校することができた。</p>					
課 題	平成23年度に小・中学校が1校体制となり、通学区域が全市となったことから、特別支援学級等の児童生徒が多方面でのタクシー利用となることが想定されるため、登下校時に必要な台数のタクシーを確実に確保する必要がある。					
今後の方向性	タクシー利用の有無について保護者、学校とも連携を密にし、児童生徒の特性に沿った通学手段を確保していく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	バス通学を利用できない特別な支援を要する児童生徒については、タクシーを利用した通学が有効であった。 今後も児童生徒の実情を踏まえた、きめ細かな事業実施が必要である。				
A	A					



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 児童生徒通学安全対策（バス添乗員）	153	114	39		
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校統合に関わる通学方法説明会における保護者からの要望を受け、児童生徒が通学に利用する路線バスに添乗員を毎年度4月から1カ月間配置するもの。</li> <li>・平成25年度は、登下校便に7人の添乗員を雇用した。</li> <li>・添乗1回あたりの賃金は750円を予算計上した。</li> <li>・原則として登校時、下校時の路線バスで新1年生が乗車する便に添乗した。</li> <li>・8月の始業式には教育委員会職員により1日間のバス添乗を行った。</li> <li>・添乗して明かとなった課題を学校や家庭、バス会社にフィードバックし、安全なバス乗車について継続的な指導を行った。</li> </ul> <p>○効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス通学する児童生徒に対し、乗車マナーや安全な乗降方法などを指導することにより、人命に関わるような事故もなく、安全・安心なバス通学に寄与している。</li> </ul>					
課 題	・添乗希望者が少なく、継続した人材確保が難しい。					
今後の方向性	配置期間については、保護者の意見を参考に乗車の習熟を考慮し毎年度4月の1カ月間としたが、保護者を対象にした通学方法説明会において意見を伺い継続することとする。 なお、今後も保護者等の意見は参考として伺い、その都度見直しは検討していく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	添乗員による基本的な公共交通機関の利用方法の指導など、平成25年度も5路線の登下校便に7名の添乗員を配置し、ゆうぱり小学校の児童を中心に乗車マナーや安全な乗降方法などの指導を行った。 小学校も統合後3年を経過し、バス通学には慣れてきたところではあるが、新1年生については初めての経験でもあり、必要な事業であると考え。 本事業の実施により児童生徒及び保護者の安全・安心の確保に相当程度の効果があったものと考え、児童・生徒に対する乗車マナー、乗降方法等の指導については、今後も継続的に実施する必要がある。				
A	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育								
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)								
	(4) 小・中学校通学費援助（定期券代）	20,403	19,168	1,235								
事業実績及び効果	<p>○事業の実績</p> <p>学校の再編統合により、徒歩通学が困難な児童生徒が路線バスを利用して通学するために必要な経費を市が負担するもので、小・中学生についてバス定期券を市が一括購入し保護者に現物支給している。</p> <p>平成25年4月当初における通学費給付及び定期券交付状況</p> <table border="1"> <tr> <td>小学生</td> <td>159人</td> <td>8,754,290 円（定期券交付）</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>92人</td> <td>10,175,220 円（定期券交付）</td> </tr> </table> <p>※生活保護費受給者については通学費相当分が支給されるため、教育費での市費負担はない。</p> <p>○効果</p> <p>バス定期券については、保護者が指定する自宅から最も合理的なバス停から学校までの定期券（1年定期）を、市がバス会社との契約により一括購入し、個々の保護者に交付しているため、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障される。</p> <p>また、定期券の紛失については、1回に限り無償で再発行を行っており、保護者に配慮した対応を行っている。</p>						小学生	159人	8,754,290 円（定期券交付）	中学生	92人	10,175,220 円（定期券交付）
	小学生	159人	8,754,290 円（定期券交付）									
中学生	92人	10,175,220 円（定期券交付）										
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省のへき地児童生徒援助費等補助金が学校の統合後5年間を限度に約2分の1交付されるが、補助期間終了後は全額市費負担となることから、その財源対策が課題となっている。</li> <li>小学校1年生から中学校3年生まで、多くの児童生徒が定期券を所持する中、その管理には保護者・学校の協力をいただきながら適切に管理されているところであるが、定期券の紛失及び乗車時の不携帯が見受けられる。金券であることを踏まえ、特に小学校低学年の児童について、その対策を検討する必要がある。</li> </ul>											
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なものであるため、補助期間の延長等について関係機関を通じ国に要望する。</li> <li>定期券の紛失及び乗車時の不携帯については、学校を通じ児童生徒及び保護者に対し継続した周知と指導を行うとともに、小学校低学年の児童について、その対策を検討していく。</li> </ul>											
教育委員会の自己評価												
事業達成度	事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なため、今後ともより合理的かつ利便性の高い運用を行う必要がある。</li> <li>通学費援助の方法については、必要額を現金給付する方法と、現行の現物給付の方法があり、どちらも一長一短があるが、通学の統一性と児童生徒の確実な通学を保障するため現行制度を改善しながら継続する。</li> </ul>										
A	B											

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	1 安全安心な通学体制の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																				
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																				
	(5) 児童生徒通学安全対策（児童見守りサービス）	1,260	1,260	0																				
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>小・中学校の再編統合により、バス通学する児童生徒の安全・安心のため、総務省の地域ICT利活用広域連携事業を活用し、ゆうばり小学校に児童見守りシステムを導入し、登下校情報サービスを実施した。また、小・中学生を対象に熊の目撃情報や不審者情報などを保護者の携帯電話等にメールで知らせる一斉同報サービスを合わせて実施した。</p> <p>平成25年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th colspan="3">対象児童・生徒</th> <th rowspan="2">利用率</th> </tr> <tr> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登下校情報確認サービス</td> <td>164名</td> <td>129名</td> <td>—</td> <td>78.7%</td> </tr> <tr> <td>一斉同報サービス</td> <td>396名</td> <td>153名</td> <td>42名</td> <td>49.2%</td> </tr> </tbody> </table>						項 目	対象児童・生徒			利用率	小学生	中学生		登下校情報確認サービス	164名	129名	—	78.7%	一斉同報サービス	396名	153名	42名	49.2%
	項 目	対象児童・生徒			利用率																			
小学生		中学生																						
登下校情報確認サービス	164名	129名	—	78.7%																				
一斉同報サービス	396名	153名	42名	49.2%																				
	<p>○効果</p> <p>登下校情報確認サービスについては、児童の登下校情報が保護者の携帯電話に送信されることから、保護者の安心感と利便性を高めることができる。</p> <p>一斉同報サービスについても、熊の目撃情報などを速やかに情報発信することにより、保護者のバス停までの出迎え等安全の向上に寄与している。</p> <p style="text-align: right;">【平成25年度 発信件数 10件】</p>																							
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの年間維持経費に約1,200千円程度を要するため、ランニングコストに係る財源確保の検討が必要である。</li> <li>・サービス利用者は、登下校情報確認サービスで対象児童の約80%と比較的高いが、一斉同報サービスでは対象児童生徒の約50%に留まっているため、利用者の拡大が課題となっている。その拡大のためにも、もっと利用利益があるものとするため、一斉同報サービスにおいて、熊や不審者情報のみに限らず、学校での臨時休校等の情報も多く配信していく必要がある。</li> <li>・保護者や児童生徒への利用の呼びかけや、正しい利用、登録法を周知していく必要がある。</li> </ul>																							
今後の方向性	<p>バス通学を行う児童以外の保護者からも、登下校情報確認サービスを希望する者がいることから、今後開催する保護者を対象にした通学方法説明会においてサービスを希望する意向調査を行う必要がある。</p>																							
教育委員会の自己評価																								
事業達成度	事業効果	<p>児童見守りサービスは、安全・安心な通学体制の確保に役立つものであり、今後も利用者の拡大に向けた保護者周知が必要である。また、一斉同報サービスについては、利用が熊目撃情報など利用が限定されているため、今後幅広い情報発信のツールとして活用するための検討が必要である。</p>																						
B	B																							

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
目的及び概要	新しい学校づくりを見据え、地域の教育力を活性化するため、夕張市全体で学校を支援する活動と地域に開かれた学校づくりを進める。					
平成25年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 学校支援地域本部事業	659	511	148		
	(2) 夕張市小中学校サポート会議	0	0	0		
	(3) 夕張高等学校対策委員会	0	0	0		
事業実績及び効果	別紙（細目）（1）～（3）に記載					
課題	別紙（細目）（1）～（3）に記載					
今後の方向性	<p>現在当市は、小学校・中学校・高等学校が各1校となり、市全体で学校を支える体制を確保する必要がある。</p> <p>そのため、学校支援地域本部事業については継続した事業展開が必要であり、特に児童生徒の安全安心対策として登下校の見守り活動と、環境整備の補助、本の読み聞かせ活動などの充実を図るとともに、各学校から要請のあったものについても対応していくほか、学校行事への参加やボランティア同士の交流機会をつくる中で情報の共有を図っていく。</p> <p>また、夕張市小中学校サポート会議については、学校が保護者や地域住民の意向を把握し、学校運営に反映させるとともに、学校に関する情報を積極的に地域に発信していくこと、また、地域の協力を得て学校を運営するために設置したものであるが、この機能を十分に活用し、地域に開かれた学校づくりを進める。</p> <p>夕張高等学校対策委員会については、平成26年度以降も引き続き夕張高等学校の存続及び入学学生募集間口の確保について、夕張市としてより良い高校の方向性を考えるため当委員会を開催し、北海道教育委員会への働きかけを行っていく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成23年度の小学校の統合により、現在は小学校、中学校、高等学校が各1校となった今、それぞれの学校を地域全体で支援していく体制が必要であり、学校、保護者、地域、ボランティアが一体となって新しい学校づくりに力を傾注しているところである。</p> <p>学校支援地域本部事業では、多くの市民ボランティアの協力により大きな成果を上げているほか、夕張市小中学校サポート会議や夕張高等学校対策委員会においては、学校、保護者、地域が一体となり、夕張市にとってより良い学校、開かれた学校づくりに寄与している。</p>				
B	B					
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	<p>・市内全域が学校区となったことから、今まで以上に地域全体で学校を支えて行かなければならない状況の中、学校支援地域本部事業について、ボランティアによる児童生徒の登下校時見守り活動などは大変評価できる。また、学校行事や授業参観、ボランティア学習会への積極的な参加にも頭が下がるが、高齢化が顕著であり、ボランティアの確保には課題が残る。その対応を考えておく必要があるのではないかと。</p> <p>・夕張市小中学校サポート会議については、地域全体からは学校への意見や情報、学校からは教育活動の状況や評価についての情報提供がなされているが、細部における情報交換も必要と考える。また、小中学校、高等学校の担当教員と交通安全指導員の会との情報交換の場を設けることも必要であるとする。</p>					
B	<p>・児童生徒が減少する状況であり、夕張高等学校の今後のあり方や入学間口の問題に係る対策委員会の活動については一定程度の評価はできるものの、地域キャンパス校など、一歩先の議論も必要になると考える。</p> <p>・高等学校の教員が中学校の授業見学に行っているとの話を聞いたが、中高一体となって子ども達の教育の向上、新しい学校づくり、子ども達の成長を見守ることは大切なことであり、多いに行うべきであると思う。</p>					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育・(社会教育)・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 学校支援地域本部事業	659	511	148		
事業実績及び効果	<p>平成22年度に中学校が1校に統合したのに続き、平成23年度には小学校も1校になったことから、本事業は全市にまたがる支援活動を行うための活動を展開している。また、平成23年度から市内全児童生徒の約65%がバス通学になったことから、登下校時の安全指導、バス停での見守り体制を充実させた。</p> <p>さらに、ボランティア同士で意見交換を行う「ボランティア交流会」を開催するなど、ボランティアの質の向上及び養成のための活動も継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせ 57回</li> <li>・学校行事への参加・参観 3回</li> <li>・清掃活動(草刈) 1回</li> <li>・ボランティア交流会の実施 1回</li> <li>・登下校時の安全指導 208回 (学校支援ボランティア「見守り隊」 87名)</li> <li>・授業(昔遊び体験)の補助 1回</li> <li>・通学路のごみ拾い 2回</li> <li>・参観懇談会待機児童見守り 4回</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委と市民ボランティアとの調整役として、コーディネーターの役割が非常に大きい が、今のコーディネーターが辞めた場合の代替りの人材を探すのが困難な状況である。</li> <li>・各バス停等に配置されている「見守り隊員」が、各路線によって人数・参加頻度がまちまちであり、中には離れた場所から毎日車で来ていただいているバス停もある。</li> <li>・放課後学習会が実施できていない。</li> <li>・ボランティアの高齢化。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>小・中1校体制のもと、地域全体で学校を支える体制を確保するためには継続した事業展開が必要であることから、特に児童生徒の安全安心対策として通学の見守り活動の充実を図る。</p> <p>また、学力向上のための放課後学習会活動の再開を目指す。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成22年度の小学校に続き成23年度から小学校の校区が市内全域になったことから、全市的な支援活動としての意味合いが、より強いものとなった。</p> <p>平成23年度からは、全児童生徒の約65%がバス通学を開始することになったことから、登下校時の安全指導・バス停での見守り活動がそれまで以上に重要なものとなり、ボランティアの存在もより大きなものとなっている。</p> <p>本の読み聞かせ、学校行事への参加、環境整備活動等は、非常に有意義なものであり、今後も力を入れていきたい。また、ボランティア同士が交流する機会も今まで以上に作っていきたい。</p>				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(2) 夕張市小中学校サポート会議	0	0	0
事業実績及び効果	<p>児童生徒の健やかな成長を図るため、学校・家庭・地域が互いに知恵を出し合い、連携協力のもと、より良い学校づくりを推進することを目的に、平成23年9月、地域住民の代表で構成する「夕張市小中学校サポート会議」を立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員数 16名（内小学校評価委員3名、中学校評価委員3名）</li> <li>・平成25年度会議開催数 2回（6月、3月）</li> <li>・学校の教育活動全般について説明を聞き、意見交換を行った。</li> <li>・地域住民の要望や地域の情報等を学校と交換した。</li> <li>・学校評価を行い、その内容を保護者と地域に公表した。</li> <li>・地域に開かれた学校づくりを進めた。</li> <li>・保護者のみならず地域住民の意向を的確に把握し、小中学校の情報を地域に還元することにより、新しい学校づくりに一定の効果がみられる。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後地域的、年齢的にバランスのとれた委員の安定的な確保と会議機能の充実が課題。</li> <li>・各地域行事への児童生徒の参加に加え、先生の地域参加など体制の充実が課題。</li> <li>・小中学校のみならず、幼稚園・高校との連携も課題。</li> </ul>			
今後の方向性	<p>地域と学校のパイプ役としてのサポート会議の機能を十分に活用し、地域総ぐるみで学校を盛り立て、夕張ならではの特色ある学校づくりに取り組むほか、幼稚園、高校との連携も視野に入れながら課題解決に取り組んでいく。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>平成23年9月に立ち上げた夕張市小中学校サポート会議については、小中学校統合により市全体が一つの学区となり、保護者のみならず地域住民の意向を的確に把握し、小中学校の情報を地域に還元することにより、新しい学校づくりに一定の効果は見られるが、今後も学校に関する様々な情報を地域に発信し様々な意見を吸い上げる機能を更に充実させ、地域に開かれた夕張ならではの学校づくりを進めることが必要であると考えます。</p>		
B	B			

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 夕張高等学校対策委員会	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>平成24年11月2日、夕張市内の生徒の減少を踏まえた、北海道夕張高等学校の今後の在り方について、夕張市としてより良い方向性を考えるため「夕張市高等学校対策委員会」を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張高等学校の現状と将来の生徒について、認識の共有化を図る。</li> <li>・北海道における小規模高校の現状と課題について、認識の共有化を図る。</li> <li>・夕張高等学校の将来的なあり方について検討を行う。</li> <li>・夕張高等学校のより良い形での存続に向け、必要に応じ関係機関に要請を行う。</li> <li>・委員数 14名</li> <li>・平成25年度会議数 2回（5月、7月）</li> <li>・8月6日、公立高等学校配置計画に対する要望書を委員長及び副委員長が北海道教育庁「新しい高校づくり推進室」を訪れ、北海道教育委員会教育長宛に提出した。</li> <li>・平成26年度から28年度の公立高等学校配置計画で、夕張高等学校の入学生募集間口の2間口復活とはならなかった。</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕張高等学校の入学生募集間口の減少</li> <li>・夕張中学校卒業生の進路の幅が広がってきており、夕張高等学校への進学率が減少傾向にある。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>平成26年度以降も引き続き夕張高等学校の存続及び入学生募集間口の確保について、夕張市としてより良い方向性を考えるため当委員会を開催し、北海道教育委員会への働きかけを行っていく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>平成24年11月に立ち上げた夕張高等学校対策委員会については、人口がピークであった昭和35年には6校あった高等学校が現在は1校となり、平成25年度の夕張高等学校への入学生の間口は1間口となったことで、今後の夕張高等学校の存続について市民が危機感をもっていることから、将来を担う子どもたちのためにより良い形での存続について、市民一丸となって協議を行っているほか、北海道教育委員会への要望活動を行っており、今後もより良い方向性を考えていく必要がある。</p>				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	小中学校1校体制のもと、地域との連携と協働による新しい学校づくりを進め、地域や学校、児童生徒の実態に応じた教育課題を明らかにし、主体的に学ぶことのできる教育内容の充実を図る取り組みを通じ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。			
平成25年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 生徒指導対策	400	400	0
	(2) ことばの教室運営	163	162	1
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0
	(4) 総合的学習実践	288	288	0
	(5) 中学校体育大会開催	1,188	1,159	29
	(6) 特別支援学級運営	510	439	71
	(7) 外国語指導充実(人件費を除く)	946	697	249
	(8) 地域ICT利活用広域連携事業(デジタル教材活用)	373	334	39
	(9) 特別支援教育支援員配置(小学校)	1,496	1,195	301
	(10) 小学校学力向上事業	168	163	5
(11) 小中学校図書充実	980	979	1	
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(11)に記載			
課 題	別紙細目(1)～(11)に記載			
今後の方向性	<p>学ぶことの楽しさや達成感をもち、基礎的な学力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体験的な学習や総合的学習の充実を図る。</p> <p>また、学習、学力の向上を図るため、個々の児童生徒の状況を把握し、特別教育支援員の配置継続やデジタル教材の活用により学習への関心を高めながら、基礎学力の向上につなげていく。</p> <p>小中学校の学校図書館の機能向上が求められている中、標準蔵書数に近づくよう平成25年度から5年間で図書を購入し教育環境を整備する。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>現在の子どもたちには、特に、小1プログラム、中1ギャップ、高1クライシスと呼ばれる学校間の接続に関わる問題も多くあるが、「夕張市学校連携会議」などを行うことにより問題解決に効果を上げている。</p> <p>また、個性の異なる子どもたち一人ひとりを大切に、それぞれの個性を伸ばす取り組みについて、障害を持つ子どもを大切に育てる教育、児童生徒が自発的かつ横断的に学習する総合学習の充実、幼稚園や小学校における外国語活動などの事業の充実を図ったほか、小中学校では学校図書館の標準蔵書数に近づくよう図書の購入を行い、学校図書館の機能向上を図った。</p>		
B	A			
評価委員会の評価判定及び意見				
判定	<p>小学校は統合3年目、中学校は4年目となった。多くの児童生徒が学び合う良さを生かし、特色ある教育を推進している。学校支援地域本部事業などを活用した外部講師による授業、教育委員会が主催・後援する行事も教育効果を上げている。また、生徒指導の充実と学力向上のために支援員が配置され、児童生徒の実態に合わせ有効に活用を図っている。ことばの教室運営について、通級の幼児・児童が増加する中、その必要性はますます高まっている。特別な支援を必要とする子どもの増加が見込まれることから、支援員・介助員の増員が必要である。また、幼保小中高、養護学校の連携を強化し、指導方法・内容など共有し、互いに役割を自覚し、補完しながら教育活動を推進する体制の構築が重要である。</p>			
B	<p>・昨年度に引き続き音楽発表会に幼稚園が参加したことは評価できる</p> <p>・ことばの教室(母子通園センター)の機能を十分に発揮し、就学指導の充実を図る必要がある。市内的な組織・取り組みの充実が求められる。</p> <p>・障がいを持つ児童生徒の自立と社会参加を促すために、宿泊学習や集合学習は有効である。諸費用の値上がりもあり、予算の増額が必要である。特別支援教育について、保護者・地域の理解と協力を得るための取り組み、夕張高等養護学校との連携の強化が必要である。</p> <p>・児童生徒のニーズに合う教育を実施するためにも、支援員、介助員の増員が必要である。</p> <p>・ことばの教室(母子通園センター)の運営に関して、指導員の専門的知識などを向上させるため、十分な研修を保证するための予算措置について検討する必要がある。</p> <p>・災害時における避難訓練や防災教育はこれまで以上に必要性を増している。併せて、異常気象警報などに対する対応など共通認識を持つ必要がある。市全体のハザードマップの作成、警報発令時の対応など十分に検討することが大切である。</p>			



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 生徒指導対策	400	400	0		
事業実績及び効果	<p>1 開催事業名 第56回 夕張市音楽発表会                  2 主催団体 夕張市教育委員会、夕張市教育研究協議会                  3 共催団体 夕張市音楽協会</p> <p>音楽発表会は、本市の児童生徒の健全育成及び文化活動の一環として、日頃の教育活動の成果を広く市民に示す場であると共に、小・中・高等学校間さらに保護者をはじめ地域住民との実態交流の場として位置付けている。</p> <p>また、小・中・高校が一堂に会しての音楽の祭典としては、半世紀の歴史と伝統があり、地域住民も親しみやすいことから、夕張市音楽協会加盟団体との連携・協力の体制ができ、地域の文化の向上と振興を考えるうえで大きな成果が得られたと考える。特に、市内の児童生徒にとって、市内のそれぞれの文化団体の発表を直接目にする事は、学校教育活動に大きく反映されることを期待される。</p> <p>期 日 平成25年10月19日（土） 午前8時45分～午前12時00分                  場 所 ゆうばり文化スポーツセンター                  参加対象 ・幼稚園—ユウパロ幼稚園 園児数：26名                  ・小学校—ゆうばり小学校 児童数：241名                  ・中学校—夕張中学校 生徒数：155名                  ・夕張市音楽協会加盟団体 6団体                  補助対象：児童生徒の移動交通費及び楽器運搬費用等として40万円を補助している。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日、会場での児童生徒の鑑賞態度に課題。</li> <li>・暖房が利かず寒い中での開催だったため、暖房は必須である。</li> <li>・観客席の座席配置等に工夫が必要である。</li> <li>・予めプログラムへ駐車場の案内を入れておく必要がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<p>市内の児童生徒の健全育成及び学校教育、特に児童生徒の情操教育の一翼を担う行事として位置づけ、生涯学習に基づく文化活動として長く活動されている夕張市音楽協会との連携を図ることにより、市民参加（児童生徒から大人まで）の活動としてより一層の発展が期待される。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>市内児童生徒の健全育成及び情操教育の一翼を担う行事であり、夕張高校吹奏楽部や夕張市音楽協会との連携など、学校間連携の推進や文化振興事業としての側面も持つ事業である。本市の教育振興の観点からも、継続した事業展開が必要といえる。</p>				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(2) ことばの教室運営（人件費を除く）	163	162	1		
事業実績及び効果	<p>○通級児数（H26.3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童33名（構音の誤り、言語発達の遅れ、吃音等）</li> <li>・幼児19名（構音の誤り、言語発達の遅れ、運動発達の遅れ、吃音等）</li> </ul> <p>○教育相談の実施 保護者の悩みを随時聞き取ることで、育児に対して前向きに取り組めるように促すことができた。</p> <p>○保護者面談の実施（随時） 家ではわからないこどもの様子を伝え、指導者と保護者での相互理解に繋がった。また、父親の面談も増えており、夫婦協力での子育てのきっかけに繋がった。</p> <p>○ケース会議の実施（教育長、アドバイザー、学級担任、保健師、家庭児童相談員等出席） 学期初めに提出する指導経過報告書を通して、指導目標・指導経過・問題点・反省点・保護者への対応・今後の課題等について話し合い、各々の役割での連携強化に努めた。</p> <p>○専門発達相談事業、運動発達訓練、道立施設専門支援事業の実施。 知的、発達、行動、学習面や集団活動、運動発達面で指導を必要とする気になる児童・幼児の発達評価、診断、保護者の助言を行い、それをもとに園生活等を通して指導内容を検討することができた。</p> <p>○幼稚園訪問（年2回） 通級している子どもだけでなく、それ以外のこどもの検査・助言等も行った。</p> <p>○教室便り（年12回）と文集（はぐくみ）の作成と発行 各関係機関の連携と地域への啓蒙を図る活動とすることができた。</p> <p>○「ことばを育てる親の会活動」の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保護者が主体的に活動・啓蒙し保護者同士・子ども同士のつながりを深め親睦を深めている。</li> <li>② 個別指導が基本のことばの教室にあって、行事を行うことで年齢や学年を越えた相互の働きかけの機会をつくった。また、普段参加することができない通級者の父親も参加することによって親同士の横のつながりをさらに深めることができた。</li> <li>③ 各行事を通じて、母親同士の交流により普段話することが出来ない子育ての悩みなどを共有することができた。また、OBの参加によって経験談を聞くことができることも効果的だった。</li> </ol>					
課 題	<p>○各行事の繁雑さの軽減と限られたスペースでの指導内容の充実を図ることが急務。</p> <p>○小学校の通級指導教室と施設を共有しているため、個別の指導室やプレイルームに空きがなく指導に支障をきたすことがある。</p>					
今後の方向性	○保護者の支援・子どもに必要な的確な指導・他機関との連携に努めていく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>夕張市ことばの教室は昭和56年に開設以来、ことばや発達に心配のある幼児・児童の療育・指導を行っており、平成6年からは母子通園センターの機能も併せ持つ施設として、肢体不自由・情緒障がい等の幼児に対する療育と情報提供等福祉分野での業務も行っている。市全体の子ども数が減少する中、通級児の数は減少しておらず、本市の障がい児教育における役割は大きなものがある。また、保護者の子育てに対する悩みに対する教育相談や、幼稚園、保育園、関係専門機関との連携の要の役割も果たしているなど、その事業効果は高いものがある。</p>				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	220	220	0		
事業実績及び効果	<p>障がいを持つ児童の個々の状態に対応した柔軟な教育内容、指導方法等により児童生徒の能力を伸ばす必要がある。本事業は自立と社会参加を目指し、普段の学習では経験することのできない、集合学習や市外での宿泊学習を行うことにより、児童生徒の成長に大きな効果を果たしている。</p> <p>○宿泊学習（千歳市）…7月19日（金）・20日（土）          ○集合学習（1回目）…10月1日（火）          ○集合学習（2回目）…2月25日（火）          以上活動費執行額 220,000円</p>					
課 題	○障がいを持つ児童・生徒に対する理解や協力を、より多くの周囲の人々に共有してもらうための工夫が必要である。					
今後の方向性	○関係者以外の人々が協調し育成の手助けも行えるような仕組みづくりを進めていく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>本事業は特別な支援を要する児童生徒の自立と社会参加の一助となるよう、日常普通の授業では経験できない宿泊学習や集合学習を行うための事業であり、児童生徒の発達と成長に大きな効果をもたらしている。</p>				
A	A					

## 平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

<b>事務事業名</b>	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	(学校教育)・社会教育・社会体育		
<b>事業項目</b>	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(4) 総合的学習実践	288	288	0		
<b>事業実績及び効果</b>	<p>小・中学校がそれぞれ総合的学習を実施し、学習活動の充実・発展を図った。主な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域探索 夕張市の伝統文化や郷土史、自然などの社会環境に目を向けた学習。共通課題をもつ生徒が公害調査などを行い、力を合わせて解決する。</li> <li>○情報学習 新聞、テレビ、インターネット、図書を活用し、情報を収集する方法やまとめる力を身に付けさせる。</li> <li>○職業体験 児童生徒が適切な職業観をもって、自分の将来について考えられる力を身に付けさせる。</li> <li>○平和教育 戦争や命について学習し、命の大切さや生きる力を育む。</li> <li>○福祉・ボランティア 高齢者や身体障害者に対するボランティアについて考え実践する。</li> </ul> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">           執行額      ゆうばり小学校   167,500円                             夕張中学校        120,500円         </p>					
<b>課 題</b>	○児童生徒の減少にともない工夫していくことが課題である。					
<b>今後の方向性</b>	○引き続き、学習に偏りなく実施し、学年においても課題を段階的に組み、学年間での偏りがないよう実施していく。					
<b>教育委員会の自己評価</b>						
<b>事業達成度</b>	<b>事業効果</b>	総合的学習は児童生徒が自発的に横断的、総合的な課題学習を行うものであり、学習指導要領において位置付けされている。本市については、地域探索、職業体験、国際文化教育、福祉ボランティアなど幅広い学習活動を行う中で、問題解決能力や、物事に主体的かつ創造的に取り組む能力、各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、学習や生活に生かすことなどに大きく役立っている。				
<b>A</b>	<b>A</b>					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 中学校体育大会開催	1,188	1,159	29		
事業実績及び効果	<p>学校教育活動として行われる中学校体育大会への、市内中学校生徒及び引率教諭等の派遣に要する旅費等、経費の一部を補助するための事業であり、本市の体育振興に大きな成果が得られたと考える。</p> <p>○南空知大会出場種目 野球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、スキー</p> <p>○全空知大会出場種目 バドミントン、バスケットボール</p> <p>○全道大会出場種目 相撲、スキー</p> <p>○全国大会出場種目 相撲 フォー</p>					
課題	○各年度の大会の成績や開催地により、事業費に大きな差異が生じるため、各競技のスケジュールや会場等を把握し、支出見込額を抑える必要がある。					
今後の方向性	○事業実施に係る財源が「こども基金」からの繰入れで賄われているため、将来的に財源が枯渇した場合の財源確保を含めた事業の在り方についての検討も必要。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	生徒が教育活動の一環として行われる大会等に参加するための費用を補助するための事業であり、本市の体育振興のためにも必要性は高く、教育効果も高い事業である。				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(6) 特別支援学級運営	510	439	71		
事業実績及び効果	<p>ゆうばり小学校における特別支援学級（病弱学級）に在籍している第1学年児童の障害は、重度の重複障害であり、遺伝子欠損症と甲状腺ホルモンに関する遺伝子の変化の病名である。自力での歩行や言葉での意思伝達がなく、痰の吸引を要する。栄養補給は、とろみ剤を使ったきざみ・ミキサー食であるが、保護者の強い希望で地元小学校の認定就学となった。日常の学校生活をおくるために、学校においても医療行為が必要なため、看護師資格をもった介護員が入学と同時に配置されている。</p> <p>介護員の主たる業務は、サクション・おむつ替え・水分補給・体温管理、給食の介助であり、教室にいて医療行為及び生活介助行為を行っている。</p> <p>季節の変わり目に体調を崩すことになり、平成25年度の3学期は入院や病院への搬送が多くなった。</p> <p>○介護員勤務時間・賃金 年間154時間 単価1,230/時間</p>					
課題	○特別に支援が必要な児童生徒に応じたサポートや医療が必要なため、その都度、慎重に検討していく必要がある。					
今後の方向性	○特別支援教育へインクルーシブ教育が導入され、就学を保障するために医療行為を行える専門の看護職の配置はもちろんのこと、本事業による介護職員のサポートや学校職員、保護者の理解と協力を得るようにしていく必要がある。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本事業は医療行為等介護が必要な特別支援学級に在籍する児童生徒にとって不可欠なものであり、ケア・サポートを受ける児童生徒はもちろん、学校や保護者、周囲の生徒にとっても高い教育効果が認められる。				
A	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(7) 外国語指導充実（人件費を除く）	946	697	249		
事業実績及び効果	<p>学習指導要領の改訂を踏まえ、本市における外国語指導充実のため、外国青年招致事業（JETプログラム）に参加。平成23年7月より委嘱した外国語指導助手（ALT）の帰国に伴い、新たに別のALTを委嘱することとした。</p> <p>外国語指導助手（ALT）の円滑な業務遂行を保障するため、日本在住に係る共済費、需要品等、外国語教育・国際理解教育の充実を図るための研修会参加の旅費、JETプログラム参加における負担金等を負担したものの。</p> <p>共済費 雇用保険料：49千円 健康保険料：173千円 厚生年金保険料：290千円</p> <p>旅費 費用弁償：193千円(帰国・赴任旅費) 研修旅費：68千円（東京・札幌研修、指導力向上研修、HAJET定例会議）</p> <p>需用費 消耗品費：34千円（授業用）</p> <p>負担金補助及び交付金 外国青年招致事業負担金：228千円（傷害保険、自治体国際化協会年会費、渡航負担金）</p>					
課題	○本市の地域性を考慮した生活指導や関わり方等も指導していく必要がある。					
今後の方向性	○本事業は市の園児・児童・生徒さらには市民への国際理解を深めるためには必要不可欠である。また、指導・教育を十分なものにするためには、当該外国語指導助手（ALT）の健康・精神面へのサポートが必要でありそのケア対処法として、研修への参加が重要である。そのため、引き続き研修への参加を勧めネットワーク広げるようサポート・アドバイスが必要である。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本市の外国語指導助手（ALT）については、財政破たんの影響により平成19年度から雇用を休止し、空知教育局の支援による外国語指導助手（ALT）の派遣により対応していたが、学習指導要領の改定により、小学校における国際理解教育が義務化され、平成21年度から自前の外国語指導助手（ALT）の採用を復活した。小中学校における外国語教育と小学校における国際理解教育を円滑に進め、児童生徒の教育活動を保障するためには、安定した外国語指導助手（ALT）の雇用が不可欠なものである。				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名		3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
		(8) 地域 ICT 利活用広域連携事業（デジタル教材活用）			373	334	39
事業実績及び効果	<p>○事業概要</p> <p>千歳科学技術大学が開発し、千歳市内の小中学校で活用実績のあるデジタル教材・eラーニングシステムをベースに、夕張市・千歳市・栗山町の各学校において、それぞれの興味、レベルにあったデジタル教材を作成、改良することで、一層質の高いeラーニング環境を各市町において効率的に構築するとともに、千歳市で実践しているデジタル教材・eラーニングを使用した授業のノウハウを、夕張市の中学校で実践することにより、夕張市における生徒の学力の向上を図ることを目的に実施。</p> <p>○事業効果</p> <p>運用支援業務の委託…教員向けICT機器研修会の実施</p> <p>ICT利活用広域連携推進連絡会の開催…今年度から、本事業で連携している千歳市、栗山町、千歳科学技術大学それに加え数市町、企業とで構成する連絡会を発足させ各市町の取り組み発表する場や情報交換をする場が設けられた。</p>						
課題	<p>導入した機材とシステムは夕張中学校に設置しているが、導入当時から担当していた教員が異動したことにより本システムの運用について熟知している教員がいなくなり、本システムを有効活用しているとは言い難い。教育委員会はサポートをする立場であるが、専門的な知識が必要な場面が多いことや体制の面もあり十分とは言えない。</p>						
今後の方向性	<p>現行の機材とシステムを有効活用するために、現在システムの運用を委託している業者と連携を密にし適切なサポートを受けられる体制を構築しておく。連絡会を最大限活用し他市の取り組みについて情報を収集する。</p> <p>また、導入当時は中学校において生徒の学習意欲の向上等に成果が見られたことから小学校においてもICTを活用した授業は効果的と考え、必要な機材の整備等をする。</p>						
教育委員会の自己評価							
事業達成度	事業効果	<p>課題に記載のとおり、継続性という点で事業を達成したとは言い難い。今後は、有効活用する体制を構築しなければならない。</p>					
C	C						



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(9) 特別支援教育支援員配置（小学校・中学校）	1,496	1,195	301		
事業実績及び効果	<p>【背景・概要】</p> <p>小中学校1校化により、統合校の児童生徒数が大幅に増加し、普通学級においても特別な支援を要する児童（高機能自閉や発達障がい等）が増加している。これらの児童生徒に対する学習面などの支援体制の確保と、クラス全体の学力の底上げを図ることが課題となった。</p> <p>このため小中学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒へ次のような指導を行うことで、極めて高い教育的効果をあげるとともに、円滑な学級運営と学級全体の基礎学力の向上に貢献しているところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取りが困難な児童に対する黒板の読み上げ</li> <li>書くことが困難な児童に対するテストなどの代筆</li> <li>聞くことが困難な児童に対し担任教諭の話を繰り返し聞かせる</li> <li>対象児童の安全の確認</li> <li>周囲の児童への障がい理解の促進</li> </ul> <p>【予算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>賃 金 1,491千円（決算額 1,191,200円） 勤務時間：週5日間1日5時間以内（小）、1日4時間以内（中） 時給：800円（年間10月間）</li> <li>共済費 5千円（労災保険料 決算額 3,417円）</li> </ul>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、共働き世帯の増加や社会情勢の変化により、小・中学校において、特別な支援を要する児童生徒の割合が増加傾向にあり、支援員の増員等が求められている。</li> <li>支援員は教員免許を持つ者が望ましいが、市内においては、その人材確保が難しい状況にある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校および中学校に継続的かつ安定的に支援員を配置し、各学級における特別な支援を要する児童生徒の状況を踏まえた、効果的な指導を行う。</li> <li>文科省においても支援員を計画的に配置できるよう、平成19年度から地方財政措置を講じており、その活用を推進しているところである。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校の普通学級に在籍する障がいを持つ（発達障害等）子ども達を適切に支援するためには、教師のマンパワーだけでは支援が困難であり、特に本市は、小中学校の1校化による児童生徒数の増加に伴う環境の変化もあって、特別支援教育支援員の配置は教育上不可欠となっている。</p> <p>平成23年度に小学校に配置した支援員については、LDの児童に対する学習支援やADHDの児童に対する安全確保などの学習活動上のサポートと児童の基礎学力の向上に大きな成果をあげている。</p>				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課 学校教育・社会教育・社会体育																				
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																			
	(10) 小学校学力向上事業	168	163	5																			
事業実績及び効果	<p>市内小学校では、児童一人一人に合った学習指導を行うため、新年度開始直後第1～第5学年の学力検査および第2・5学年の知能検査を実施している。平成23年度までは個人負担で検査を実施していたが、学力向上のために行う事業であることから学校設置者である市教委が負担すべきものとして、平成24年度より予算措置したものである。</p> <p>中学校は受験に向けた学力テストが行われ、比較的簡単に各生徒の学力状況を把握しやすい。しかしながら、小学校は学力状況を把握する機会が少なく、教職員も参考資料がないため各児童に応じた指導ができない。そのため、小学校においてこの学力・知能検査を実施していく必要がある。</p> <p>また、各教職員は授業を構成していくうえで、各児童の発達状況に応じた学力を把握し指導案を作成していけるため、本事業効果は大きいと考える。さらに、本市の学力を把握し分析していく資料としても最適な事業といえる。</p> <p>平成25年度実施実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>学力検査</th> <th>知能検査</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年</td> <td>37人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2学年</td> <td>35人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>第3学年</td> <td>36人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4学年</td> <td>44人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5学年</td> <td>38人</td> <td>44人</td> </tr> </tbody> </table>					学年	学力検査	知能検査	第1学年	37人		第2学年	35人	35人	第3学年	36人		第4学年	44人		第5学年	38人	44人
学年	学力検査	知能検査																					
第1学年	37人																						
第2学年	35人	35人																					
第3学年	36人																						
第4学年	44人																						
第5学年	38人	44人																					
課 題	<p>○本事業効果の知能・学力の実態把握や短期効果については、実際に本事業検査を資料として活用する各教職員が把握し効果を得ていることとなるため、学校から事業効果等を報告してもらう必要がある。</p> <p>○学力向上に関しては、学校からの実施結果報告（正答率等）で効果が見えてくるものではなく、その報告を長期にわたり分析していくとどこで効果を見ていかななくてはならない。そのため、開始年度以降引き続き分析し、本市小学生児童の学力向上を図っていく必要がある。</p>																						
今後の方向性	○引き続き毎年度本事業を実施し、本市児童の学力向上のための資料として活用していく。																						
教育委員会の自己評価																							
事業達成度	事業効果	本事業は児童の学力向上において必要なものである。また、教職員が児童の実態を把握し指導することで学習環境もより一層良いものとなる。本市の学力の実態把握や改善策を考える参考資料として本事業は欠かせないと考える。																					
B	A																						

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	3 小・中学校教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(11) 小中学校図書充実	980	979	1		
事業実績及び効果	<p>新学習指導要領では知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力の育成を重視しておりそれを醸成する場としての学校図書館の機能向上が求められている。文科省では学校の規模により標準蔵書数を定めているが、小中学校ともその基準に近づくよう今後5年間で図書を購入し教育環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書数(H24年度) 小学校～5,579冊（標準蔵書数 8,760冊） 中学校～9,040冊（標準蔵書数 2,728冊）</li> <li>・予算措置 小学校～482,000円 中学校～498,000円</li> <li>・H25年度図書購入数、金額 小学校～285冊、481,352円 中学校～261冊、496,889円</li> </ul>					
課 題	<p>現在は小学校に司書教諭の免許を有する教諭、中学校には図書担当の教諭がいるが両者とも担任との兼務であり図書の選定事務は過大なものとなっている。また、計画通りに購入を進めていった場合、収蔵場所が不足することからその確保も必要となってくる。</p>					
今後の方向性	<p>定められた標準の蔵書数に近づくよう継続して図書を購入する。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	購入単価の増により見積もった購入予定数を若干下回ったものの、計画的な購入ができた。				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	<p>児童・生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、児童・生徒の安全性の確保、施設の耐久性と教育環境の質的向上を目的に必要な事業を行う。 また、教材教具等については児童生徒の学習活動に支障がないよう計画的に整備を行う。</p>			
平成25年度の 主な事務事業名 及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 小・中学校校舎維持補修	3,541	3,408	133
	(2) 小・中学校教材教具整備	2,026	1,870	156
	(3) 小・中学校管理業務(用務員賃金)	5,972	5,965	7
	(4) 小中学校パソコン整備(更新)	8,000	7,555	445
	(5) 中学校屋外貯蔵タンク設置	1,407	1,407	0
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(4)に記載			
課題	別紙細目(1)～(4)に記載			
今後の方向性	<p>小中学校統合による校舎等の大規模改造工事に伴い、必要な設備・備品等の整備も行い、当面施設の大規模改修は要しなが、未改修部分の劣化が表面化してきていることから、適切な調査を実施し、計画的な整備を行うほか、校舎内の床磨き等、校舎の適正な維持管理と、各学校の教育方針に沿った教材等の整備も計画的に進め、教育環境の維持向上に努める。 また、学校施設設備のき損・汚損防止については、学校と連携し適切な生徒指導が行われるよう努めると共に、学校支援ボランティアによる校舎内及び校舎周辺的环境整備についても、学校支援地域教育協議会と連携して進める。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果	<p>小中学校統合による校舎等の大規模改造工事により、校舎の耐震化、バリアフリー化、耐用年数の向上、教育環境や福祉環境の整備を行っており、必要な設備・備品の整備も行い、校舎や体育館などの建物本体と、主な設備備品については当面大規模な改修や更新を要しないが、教材教具については小・中学校の教育方針に沿った整備を行っている。 中でも、情報教育のためのパソコンは小中学校とも更新を行い、現状に即した授業が展開されている。 また、消防法改正による老朽化設備の改修に代わる設備を新たに設置。 校舎の維持管理を担う用務員は、常勤2名体制とし校舎内外の環境整備を行うなど、児童・生徒の安全、安心に効果を上げている。</p>		
B	A			
評価委員会の評価判定及び意見				
判定	<p>・小中学校の統合による校舎の大規模改造工事、校舎の耐震化等、又学習指導要領の改訂による必要な設備・備品の整備など大変評価できる。 ・小学校に在籍する重度の重複障害を持つ児童のために必要な施設の早期のバリアフリー化が必要と思われる。 ・小中学校が災害時の緊急避難場所に指定されているが、特に小学校の場合、夕張川上流のダム決壊による災害が想定されるが、その対策が必要である。 ・南清水沢のコンパクトシティの造成に関して、工事と工事車両の通行等で、生徒の登下校の安全・安心のための道路の拡張など考えているか。 ・児童・生徒の増加により、施設設備の毀損・汚損に対する用務員の維持管理作業を評価すべきである。</p>			
B				

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小・中学校校舎維持補修	3,541	3,408	133		
事業実績及び効果	<p>小学校及び中学校において、限られた予算の中で、施設の破損や劣化、また、設備の不具合等について、その状況に応じて修繕を実施。</p> <p>小学校費 予算額 200千円 決算額 155千円 不用額 45千円</p> <p>中学校費 予算額 400千円 決算額 387千円 不要額 13千円</p> <p>このほか、緊急に対応が必要な修繕が発生した場合は、その都度、補正予算等で対応することとなるが、今年度は、中学校において、校舎裏敷地の陥没が発生したため、補正予算により対応した。</p> <p>中学校費 予算額 2,941千円 決算額 2,866千円 不要額 75千円</p>					
課 題	<p>小・中学校とも統合に向けた大規模改修を行ったが、未改修部分の劣化が徐々に設備の故障につながり、これが表面化してきている。特に水回りについては、その実態把握等も困難な場合があるため、適切な調査を実施した上で、計画的な整備が必要となる。</p>					
今後の方向性	<p>児童生徒の安全・安心な学校生活を保障することはもちろんのこと、災害時の緊急避難施設にも指定されていることから、適切な状況把握と計画修繕の実施に向け、その財源確保を含め、協議・検討を行う。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小中学校とも、学校統合に伴う校舎等の大規模改修工事を行っているため、施設の維持補修は限定的なものとなっているが、両校とも未改修部分の経年劣化などによる補修箇所は増加することが見込まれる。今後は、施設の長寿命化を図るための予算措置を検討する必要がある。</p>				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(2) 小・中学校教材教具整備	2,026	1,870	156		
事業実績及び効果	<p>小・中学校ともに、児童生徒の学習意欲を引き出すため、各学校の教育方針や今年度の経営計画に沿って、予算の範囲内で教材の整備を行った。</p> <p>小学校費 予算額 1,193千円 決算額 1,037千円 不用額 156千円</p> <p>中学校費 予算額 833千円 決算額 833千円 不用額 0千円</p>					
課 題	<p>児童生徒数の増加により教材の耐用期間が短くなることや、故障の発生も多くなることも考えられることから、各学校における教材教具の状況調査と、必要な更新を行う必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>限られた予算の中での整備となることから、学校としての整備方針を踏まえたうえで、効果的かつ、耐用期間に配慮した教材の整備に向け努力していく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小・中学校ともに新学習指導要領に基づく。 児童生徒の学習意欲を引き出すため、各学校の教育方針に沿った形で教材の整備を行うことで、一定の成果をあげるものとするが、予算の確保が困難な状況において、計画的・効果的な教材整備に向け、学校との連携、協議・検討を要する。</p>				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備		担当課	教育課 (学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)
事業実績及び効果	<p>(3) 小・中学校管理業務（用務員賃金）</p> <p>平成24年度に引き続き、8時間のフルタイム2名体制（11カ月雇用）を行うことで、校舎内外の環境整備を図り、安全点検による早期の異常箇所見出にも努めているところである。</p> <p>小学校（1校 常勤2名） 予算額 2,994千円 決算額 2,991千円 不用額 3千円</p> <p>〔 共済費 390千円（決算額 387千円） 賃 金 2,604千円（決算額 2,604千円） 〕</p> <p>中学校（1校 常勤2名） 予算額 2,978千円 決算額 2,974千円 不用額 4千円</p> <p>〔 共済費 390千円（決算額 386千円） 賃 金 2,588千円（決算額 2,588千円） 〕</p> <p>維持管理作業の増加が見込まれるため、現在の雇用体制を維持し、合理的な作業実施により良好な教育環境の整備を図る。</p>			5,972	5,965	7
課 題	<p>小中学校とも児童生徒数の増加により、学校施設のき損、汚損が増加し用務員の維持管理作業が大幅に増えている。</p> <p>また、冬の除雪場所が広範囲にわたる中で、早朝からの作業となる（児童生徒の登校前に一定程度終了させる必要があるが、バス通学のために特に時間が早くなる）ため、負担が大きいため、その対応策も検討する必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>安全管理の面において、学校施設の経年劣化等による異常、破損箇所の早期見出が最も重要であること、また、通常の維持管理業務も広範囲に及ぶため、現在の雇用体制を維持し、安全かつ良好な教育環境の保持、整備に努めるとともに、除雪機等の施設維持に係る機器の更新等による効率的な管理業務について検討していく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果					
B	A		<p>小中学校とも広範囲の作業量となっているため、フルタイム2名の雇用形態を継続している。また、近年の異常気象による不測事態も懸念され、特に冬場の大雪による災害発生も毎年のように危惧される状況となっているため、児童生徒の安心・安全を確保する上でも引き続き現行体制を維持しつつ、効率的な管理業務を模索していく必要がある。</p>			

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(4) 小中学校パソコン整備（更新）	8,000	7,555	445		
事業実績及び効果	<p>情報教育のためにパソコン教室に設置している児童・生徒用パソコンが老朽化しているため更新したもの。</p> <p>導入実績                  パソコン：小学校～41台、中学校～41台 計82台                  ソフト：オフィスソフト一式、授業支援ソフト一式、ウイルス対策ソフト一式</p> <p>更新前までは、不具合により授業中に使用できなくなることや、性能が現在のものに即していないため展開できる授業内容に制限があったが、更新後は不具合の発生がなくなり、授業についても現状に即した内容で展開できるようになった。</p>					
課 題	<p>情報教育のための機器・ソフトウェアの進歩が目覚ましい中、それに対応するための機器等の購入予算の確保。また、本事業においては導入に係る購入経費のみの措置であり、保守費用は措置されなかったことから今後不具合が発生した時に修繕のための経費がかさむこととなる。</p>					
今後の方向性	<p>機器・ソフトウェアを計画的（5年ごと）に更新する。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>限られた予算の中で、最低限の台数と性能を満たしたパソコン等の更新ができた。大きな不具合も生じることなく稼働しており、情報教育が展開されている。</p>				
B	A					



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	4 学校施設設備の整備	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)		
	(5) 中学校屋外貯蔵タンク設置	1,407	1,407	0		
事業実績及び効果	<p>消防法の改正により、老朽化した地下タンクの漏れを防止する措置を講じなければならなくなったが、対策のために係る経費を算出したところ、地下タンクの使用を中止し屋外に新たに貯蔵タンクを設置することが最も安価であったため本事業を実施したものの、当初設計通りに完成、稼働をしている。</p>					
課 題	なし					
今後の方向性	継続しての稼働と、耐用期限（20年程度）での更新。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	法令の改正にのっとり、適正な対応が取れた。また、地下タンクを有していたことにより、危険物取扱者の配置と定期点検やそれに係る事務も省略できることとなった。				
A	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実		担当課	教育課	(学校教育)・社会教育・社会体育	
目的及び概要	<p>児童生徒の発達段階に即した献立の充実と、食に対する指導と実践を通して、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携して食中毒など給食事故を防止し、子ども達に喜ばれる安全で安心な学校給食の提供に努める。</p> <p>また、児童生徒の健康管理については、学校保健法の規定に基づき必要な検診等を行うと共に、関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防に努める。</p>					
平成25年度の 主な事務事業名 及び決算額	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(1) 小学校給食運営			5,423	4,955	468
	(2) 中学校給食運営			3,756	2,899	857
	(3) 中学校給食業務(調理員賃金)			10,616	10,597	19
	(4) 児童・生徒の健康管理			602	374	228
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(4)に記載					
課 題	別紙細目(1)～(4)に記載					
今後の方向性	<p>地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れ、衛生管理マニュアルの徹底した実践と、調理員個々の意識改革を行い食中毒などの給食事故防止に努める。</p> <p>また、今後においても適正な調理員数を確保するとともに、計画的な備品の購入など、合理的な調理場運営に努める。</p> <p>児童生徒の健康管理については、学校、保健所、医療機関などと緊密に連携し、インフルエンザ等の感染症の予防対策に努める。</p> <p>また、北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、児童の虫歯予防に取り組んでいく。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本市の学校給食は、ゆうばり小夕張中共同調理場として自校方式により運営され、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。				
B	A	<p>また、児童生徒の食物アレルギーの調査を行い、対策を講じている。</p> <p>給食調理員は最低限必要とされる人数以上の調理員を配置し、衛生管理の徹底などにより信頼される給食の提供と、一層の合理的な調理場運営を図っている。</p> <p>小中学校が各1校になり、インフルエンザ等の感染症が広がりやすい環境にあるため、来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っている。</p>				
評価委員会の評価判定及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の給食運営に関し、栄養教諭、調理員の衛生管理の徹底と実践により、児童生徒の発達段階に合わせた献立の充実、食物アレルギーを持つ児童生徒への対策と指導、食中毒などの給食事故の皆無等、関係者の努力が評価できる。</li> <li>・中学校の給食費の未納者について対策が急がれる。</li> <li>・児童生徒の健康管理について、養護教諭、学校医等の協力により健康診断、環境衛生検査がスムーズに実施できたことは評価できる。</li> <li>・感染症については、小中学校の一校化に伴い、通学地域が広域化し、感染症が広がりやすくなるので、学校や家庭での取り組みが益々大切になると思われる。</li> </ul>					
A						

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 小学校給食運営	5,423	4,955	468		
事業実績及び効果	<p>○食に対する指導について 低学年・中学年・高学年ごとに指導内容を設定し、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点と児童へのアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養所要量、食品構成を満たすようにする。</li> <li>・児童の実態（成長期、味覚の形成期、心身の健康等）に配慮する。</li> <li>・年間献立作成計画に基づいて作成する。</li> <li>・献立：毎日変化をつけ、子どもの嗜好を考慮し、組み合わせや調理方法を工夫する。</li> <li>・新しい献立を取り入れるようにする。</li> <li>・出来上がり量や彩りを考慮する。</li> <li>・行事食を取り入れ、食文化の継承に役立てる。</li> <li>・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。</li> <li>・地場産、地元の名産品を積極的に取り入れ愛着を持たせる。</li> <li>・冷凍加工食品を使用する場合は、品質、栄養価、衛生面から選択し、使用頻度に注意する。</li> </ul> </p> <p>○準要保護児童に対する給食費の扶助について 今年度は33名の児童に対し、給食費を扶助した。夕張市は完全給食制であり給食は教育的側面を有しているため、給食の提供は不可欠。</p>					
課題	○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置することにより、調理場内だけでなく、外部からの意見を取り入れることと、例年通り児童・生徒アンケートを行い、食育の充実と子どもたちに喜ばれる学校給食の提供に努める。					
今後の方向性	<p>○調理器具の定期的な保守と維持管理により確実な給食の提供に努める。</p> <p>○共同調理場で献立作成委員会を設置し、PTA等外部からの意見も取り入れることにより、充実した献立を提供する。</p> <p>○給食費の未納に関しては今年度から生活保護費の代理納付、また学校、教委連携した徴収を実施することにより小学校で未納なしとなった。引き続き適正な納入をお願いする。</p>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	安全・安心な給食を提供するのはもちろんのこと、地場産品を積極的に取り入れるなど学校給食を通じて食に関する興味・関心を高めることができた。 適正な徴収事務の結果、未納額を無しとさせることができた。				
A	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課(学校教育)・社会教育・社会体育	
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)
	(2) 中学校給食運営	3,756	2,899	857
事業実績及び効果	<p>○給食事故に関して 異物混入などは発生せず、食中毒に関しては食中毒警報発令があり次第、関係機関への周知の徹底等により防止できており、安心・安全な給食を提供できた。</p> <p>○献立作成について 下記、留意点と児童へのアンケートなどを含めて栄養教諭が献立を作成し、子ども達に喜ばれる給食提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養所要量、食品構成を満たすようにする。</li> <li>・児童の実態（成長期、味覚の形成期、心身の健康等）に配慮する。</li> <li>・年間献立作成計画に基づいて作成する。</li> <li>・献立：毎日変化をつけ、子どもの嗜好を考慮し、組み合わせや調理方法を工夫する。</li> <li>・新しい献立を取り入れるようにする。</li> <li>・出来上がり量や彩りを考慮する。</li> <li>・行事食を取り入れ、食文化の継承に役立てる。</li> <li>・食材：旬の食材を取り入れ季節感を出す。</li> <li>・地場産、地元の名産品を積極的に取り入れ愛着を持たせる。</li> <li>・冷凍加工食品を使用する場合は、品質、栄養価、衛生面から選択し、使用頻度に注意する。</li> </ul> <p>○食の指導について 学年ごとに指導内容を定め、年齢に沿った指導を行うことで、食に対する興味、関心を高めることができた。また、給食だよりを月1回発行することで、保護者に対しても食育に対する意識を高めることができた。</p> <p>○準要保護生徒に対する給食費の扶助について 今年度は32名の生徒に対し、給食費を扶助した。夕張市は完全給食制であり給食は教育的側面を有しているため、給食の提供は不可欠。</p>			
課 題	<p>○現調理場の設置から4年が経過し、各種設備に不具合が生じることが多くなった、設備の不具合により給食が提供できないことのないよう保守等をしなければならない。</p> <p>○調理場の一点検の指摘事項から薬剤師等を含めた各種運営委員会（衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会）の作成が必須。</p> <p>○給食費の未納対策</p>			
今後の方向性	<p>○衛生管理委員会・献立作成委員会・物資選定委員会の設置することにより、調理場内だけでなく、外部からの意見を取り入れることと、例年通り児童・生徒アンケートを行い、食育の充実と子どもたちに喜ばれる学校給食の提供に努める。</p> <p>○給食費の未納に関しては今年度から生活保護費の代理納付、また学校、教委連携した徴収を実施することにより未納額は減少傾向となった。引き続き適正な納入をお願いする。</p>			
教育委員会の自己評価				
事業達成度	事業効果			
A	A	<p>安全・安心な給食を提供するのはもちろんのこと、地場産品を積極的に取り入れるなど学校給食を通じて食に関する興味・関心を高めることができた。</p> <p>一方で、給食費の未納が続くと給食そのものの提供が難しくなることから未納対策は急務と思われる。</p>		

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	(学校教育)・社会教育・社会体育		
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(3) 中学校給食業務(調理員賃金)	10,616	10,597	19		
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうぱり小・夕張中共同調理場の調理員雇用に係る賃金及び社会保険料を措置したもの</li> <li>・給食供給数 450食</li> <li>・調理員数(臨時) フルタイム 8名(H26.3.10 1名退職により減) パートタイム 1名</li> </ul> <p>給食提供予定日において、1日も欠けることなく提供することができ、また異物の混入も発生せず安心・安全な給食を提供することができた。</p>					
課 題	○調理員全てが、勤務経験は長いものの、その一方これまで調理員の資質向上のための研修等を行っていない。					
今後の方向性	○今後とも安心・安全な給食の提供のため、資質向上のための研修等の機会を設ける。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	本市の給食共同調理場については、自校方式により運営しており、調理員についても正職員の配置はないものの、ベテランの臨時職員を適正に配置することにより、安全・安心で美味しい給食の提供に努めている。今後は積極的に研修にも参加し、調理員一人一人の資質を向上させ、衛生管理の徹底と、地域に密着した給食の提供に努める。				
B	B					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育																
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																
	(4) 児童・生徒健康管理	602	374	228																
事業実績及び効果	<p>○出席停止、学級・学校閉鎖に関して 学校保健法第12条に基づく伝染病に関しては学校医と養護教諭等との連携を密に行い、的確に出席停止を行い、感染症の拡大防止に努めた。</p> <p>○学級・学校閉鎖 幼稚園で1月下旬から2月にかけて、一回、5日間の園閉鎖。小学校では3月上旬に4日間の学年閉鎖を実施した。</p> <p>○主な感染症別出席停止患者数</p> <table border="1"> <tr> <td>インフルエンザ</td> <td>溶連菌感染症</td> <td>流行性耳下腺炎</td> <td>水痘</td> <td>手足口病</td> <td>マイコプラズマ肺炎</td> <td>ウイルス性胃腸炎</td> </tr> <tr> <td>76名</td> <td>2名</td> <td></td> <td>16名</td> <td></td> <td>4名</td> <td>1名</td> </tr> </table>						インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎	76名	2名		16名		4名	1名
	インフルエンザ	溶連菌感染症	流行性耳下腺炎	水痘	手足口病	マイコプラズマ肺炎	ウイルス性胃腸炎													
	76名	2名		16名		4名	1名													
<p>○学校保健安全法施行規則に定められた健康診断、環境衛生検査等に関しては遅滞なく実施をした。</p> <p>○結核健診に関して 問診票、内科健診時の問診により判断しており、昨年度の精密検査要検討児童・生徒はいなかった。また、夕張市は南空知結核対策委員会に属しており、要検討児童・生徒がいた場合においても適切な判断を下すことができる。</p>																				
課 題	<p>○各学校一校化に伴い、感染症が広がりやすく、特に小学校において患者数が増加傾向にあり、うがい、手洗い等感染症予防に努めているが、低学年の感染を狭い校舎内でどのように防ぐかが課題となっている。</p> <p>○平成25年度より、南空知結核対策委員会の事務局の輪番が夕張市となった。医師会、学校長等の協力もあり遅滞なく事務を執り進めることができた。</p>																			
今後の方向性	<p>○以前より来校者の消毒の徹底や、児童生徒に対する「うがい」、「手洗い」等指導を行っているが、更に指導の徹底を図る必要がある。</p> <p>○今後も学校保健法、同法施行規則に沿い、確実に健診・検査等を行い、児童生徒の健康・安全に努める。</p>																			
教育委員会の自己評価																				
事業達成度	事業効果	<p>養護教諭、学校医等の協力により、児童・生徒の健康診断や環境衛生検査はスムーズに実施することができた。</p> <p>幼稚園、小学校で園、学年閉鎖を実施しなければならなかったことから、幼稚園学校はもちろん、家庭での感染防止に向けた教育を徹底する必要がある。</p>																		
B	A																			

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	6 幼稚園教育の充実	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
目的及び概要	創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、地域の保育園、学校、福祉施設などの交流を通し、人々との触れ合い体験による社会性の育成や、学びと遊びを中心とした教育課程の充実を図るなかで、魅力ある幼稚園づくりに努める。					
平成25年度の主な事務事業名及び決算額	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 幼稚園運営（人件費を除く）	8,723	8,604	119		
事業実績及び効果	<p>○他校種等連携 清陵保育園・ゆうばり小学校交流、夕張中学校・札幌工業高校来園。学習の一環としての活動を通し、異年齢との触れ合いやものづくりを体験し、創作や遊びの創意工夫を築くことができた。</p> <p>○食育教育の充実 幼稚園園庭での食物の栽培と収穫や、毎日の昼食時間を通じ、食べ物の大切さや食事の大事さを学んだ。</p> <p>○特色ある教育活動 「英語遊び」による異なる文化への関心、幼児対象の鑑賞教室に参加し幼児間交流をするなど小学校就学時の安心育成に効果を上げた。</p> <p>○地域との連携 ボランティアによる読み聞かせ、市内福祉施設の訪問（清光園・虹ヶ丘）による世代間交流などを通じ、人間形成の基礎を育成した。</p> <p>○保護者との連携 年5回の保育参観・懇談会や各種行事の企画により保護者の来園を呼びかけ、教育活動の理解と信頼関係を築くことができた。</p> <p>○安全の確保 幼稚園煙突からアスベストが発見されたことにより、アスベストを含む煙突全体を撤去し幼児・近隣住民の安全を確保できた。</p> <p>○遊具の更新 老朽化により腐食していたジャングルジムを更新した。新しいジャングルジムは安全にも配慮したつくりとなっており、外遊びの充実が期待できる。</p>					
課 題	<p>○教諭が平成25年度末に1名退職したが、身分が嘱託職員であること、給与額の低さから確保に相当の時間を費やした。他の幼稚園と比較したときに身分や給与額とで相当の差があることが原因と考えられる。</p> <p>○建築から40年、開園から20年を経過し施設の老朽化が顕著となっている。</p>					
今後の方向性	○市内の幼児数が減少する中、現在の幼稚園を維持していくことは施設の老朽化、教諭の確保といった面で非常に厳しいと考える。本市の幼児教育のありかたとともに幼稚園をどうするかといった検討をしていく。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	運営のための予算が限られる中、入園者数も減少しており、園児を獲得できる魅力的な事業により入園者を確保するといったこともできない状態である。 また、施設等の修繕も最低限しかできず環境は低下する一方である。				
B	A					
評価委員会の評価判断及び意見						
判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校との連携については、前年度同様に行っているほか、保育園との交流、又市内外の高校との交流もあり、これからも続けられることを期待する。特に年長の園児においては、小学校入学時において不安を和らげ、解消できるものと期待する。</li> <li>・食育の充実では、長年に渡って行っている行事で市内の農家を見学、実習体験することで、食物の大切さ、又生産者の苦勞を身をもって感じる事ができたものと大変評価できる。加えて、園庭で食物の栽培も行っており、昼食時間を通じ、食事の大切さを学ぶことができています。</li> <li>・特色ある教育活動として、例年行われているALT（外国語指導助手）による英語遊びにより、語学に興味を持たせることで就学時に効果を上げることが期待できる。</li> </ul>					
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携においては、発表会や運動会等で各地域に参加、見学を積極的に呼びかけ、地域との連携を図っていることは評価できる。今後も続けていってほしい。</li> <li>・保護者との連携では、各種行事への参加を園から積極的に呼びかけを行い、連携を深めていることは評価できる。今後も続けていってほしい。又、近年時間外保育（延長保育）が増加する中、園には負担がかかると推察するが、保護者の負担軽減からも続けていってほしい。</li> <li>・安全の確保については、園自体の老朽化が進み、災害時等の園児、先生方の身の安全を第一に考えていただきたい。それには近隣住民との連携も大切なことであると考え。遊具等についても常に点検、整備を行い安全確保に努めていただきたい。</li> <li>・今後の課題であるが、人口減少、少子高齢化により園児の減少が続く中、現在の園児数確保を期待する。又、職員の確保も考えなくてはならない。</li> </ul>					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
目的及び概要	社会構造の変化に伴い多様化する市民の学習要求に対応し、市民一人ひとりの心豊かな充実した生活を実現するため、市民の自発的学習活動を援助すると共に、体系的、継続的な社会教育行政を推進する。					
平成25年度の 主な事務事業名 及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0		
	(2) 美術品管理事業	2,831	2,621	210		
	(3) 公民館事業	0	0	0		
	(4) ふるさとギャラリー事業	0	0	0		
	(5) 生涯学習プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業	0	0	0		
	(6) 文化財保護事業	0	0	0		
	(7) 図書コーナー事業	113	102	11		
事業実績及び効果	別紙細目(1)～(7)のとおり					
課題	別紙細目(1)～(7)のとおり					
今後の方向性	文化の振興は市民が充実した生活を送るために不可欠なものであることから、市民との連携を今まで以上に強化し、ここに挙げた事業を継続的に実施するとともに、新たな事業についても検討していくものとする。					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<p>小中学校において開催されている児童生徒鑑賞教室は、舞台芸術を身近に感じることのできる貴重な機会を提供している。美術品管理事業は、美術館屋根崩落後の美術品の活用を可能にすることができた。公民館事業及び図書コーナー事業は予算が厳しく、その他の事業については予算化されていないが、社会教育委員、文化財保護委員、ボランティアらと職員との連携及び創意工夫により、スムーズかつ効率的な運営が行われている。</p>				
B	A					
判定	評価委員会の評価判定及び意見					
A	<p>・児童生徒鑑賞教室は、舞台芸術、音楽鑑賞を肌で感じられたことは子どもたちの感性を育む上で大いに教育効果があったと判断する。なお、学習発表会などの創造活動の素材として参考にされてはどうか。</p> <p>・美術品管理事業では、市民の財産である美術品の収蔵、展示、管理については一定の評価をしたい。今後作品を多くの市民の目に触れるよう、移動展示も含め「場」づくりに傾注していただきたい。</p> <p>・公民館事業の高齢者学級では人間関係が希薄となっていると言われる中で、交流の場を通じ生涯学習の観点からも評価される。また、前年の反省として日程、時間の変更や、カリキュラムの編成について課題整理を行い、定員を確保できたのは評価したい。今後公民館活動を推進していくためには、行政も関わりながら合同イベント等の事業企画を検討してはどうか。</p> <p>・ふるさとギャラリー「あずましい」は、認知度も高まり、市民の創作や発表、展示の機会に寄与し、幅広いジャンルの「場」として定着しており、市民文化意識の高揚と芸術の発掘にもつながり高く評価したい。</p> <p>・生涯学習プロジェクトについては、生涯学習の楽しさと仲間づくりへの一助として高齢者や学生、家庭の主婦が参加できる工夫が必要と思われる。また、わくわくプロジェクトについては、今後指導者の確保の改善策として、地域の有識者への働きかけを積極的に展開しながら人材発掘に努めてはどうか。なお、「読売光と愛の事業団」からの助成は平成28年度までとなっており、実行委員会の運営に支障が予想されるため、財源確保が憂慮される。</p> <p>・夕張市の文化財保護事業については、予算措置がない中、保護委員や職員による保護活動は評価したい。なお、石炭博物館は社会教育的な観点から、産業遺産としての歴史的な資料の保存や、市内の文化財の保護と基礎的な研究への「場」として位置付けを確立させ、今後各種団体、産学の連携強化に努められたい。</p> <p>・図書コーナー事業について、子どもへの読み聞かせや絵本の紹介などの事業は、子ども達の感性を高め、参加した子ども達の読み聞かせに集中している様子は、教育面からも効果は大きい。学校図書室については、その役割は大きく、ボランティアなどと連携しながらの書架整理など図書室利用の拡大と充実に努めているのは評価できる。図書まつりについては、「夕張子ども文化の会」「読み聞かせボランティア」「生涯学習推進プロジェクト」など、地域の有志やボランティアの協力により、「遊びと楽しさ」を提供する「場」として定着し、図書コーナーの利用者対策に繋がるなど、社会教育の観点からも効果があった。</p> <p>・第1次こどもの図書活動推進計画が策定されたことは、読書環境の整備、読書支援の推進、未来を担う子ども達への基礎知識や学習意欲の向上へも繋がり、本事業は高く評価したい。</p>					



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(1) 児童生徒鑑賞教室	500	500	0		
事業実績及び効果	<p>①「あおとり（1～3学年）」、「ペニスの商人（4～6学年）」            公演団体：(株)劇団め組 日時：平成25年9月3日（火）8:45～9:45、10:40～12:00            会場：ゆうばり小学校体育館 対象：小学校児童及び一般市民            低学年、高学年に分けての観劇とした。低学年用の劇ではわかりやすい感情表現で、児童は怖がり、驚き、笑うなど各場面をよく理解していたようである。高学年用の劇も難しい内容の物語を無駄なくコンパクトにまとめた進行で、どちらも満足度は非常に高かったようである。</p> <p>②音楽で世界の旅へ～リズムに乗って世界を旅行しよう            公演団体：ケイ・フロンティア 日時：平成25年9月18日（水）10:40～12:20            会場：夕張中学校体育館 対象：中学生及び一般市民            日本、中国、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカなどの代表的なリズムを、世界地図とともに体験した。ヴァイオリン、パーカッションのワークショップもあり、楽器に親しめる内容であった。最後に校歌の生演奏があり、1番は全員で歌い、2番・3番はそれぞれブルース・ボサノバ調にアレンジされ披露された。生徒は大きな声で斉唱し、自然に手拍子がでるなど楽しんでいただようである。</p>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的な鑑賞教室にするため、事前・事後の学習機会を計画的に設けるようにできるとよい。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を身近に体験できる貴重な機会であり、今後も計画的な継続が必要である。</li> <li>・内容・運営については、今後も実行委員会（各学校の担当教諭）の主体性が求められる。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	年に一度ではあるが、学校で間近に舞台芸術にふれることは、児童生徒の芸術的な感性を養うことにつながり、情操教育において非常に意義あるものと言える。 また、鑑賞態度を学ぶ上でも今後も継続して実施する必要がある。				
A	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育・社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(2) 美術品管理事業	2,831	2,621	210	
事業実績及び効果	<p>平成24年2月23日、雪の重みにより夕張市美術館の屋根が崩落したが、大部分の作品は地下に収めてあったため無事であった。</p> <p>その後、北海道の「雪害対策への平成24年度緊急雇用創出推進事業」補助金を活用して2名を雇用し美術品の整理を行い、夕張中学校の空き教室2部屋に美術品収蔵庫としての機能を持たせることができた。</p> <p>平成25年度は、専門知識を持つ人物1名を臨時職員（4時間パート、週3日）を雇用し、美術品の整理をさらに進めるとともに、市役所内の「ふるさとギャラリー」及び夕張中学校の玄関ホールで作品の展示を行った。</p> <p>また、美術品をより良好な環境で収蔵できるように、収蔵庫となっている中学校の空き教室に警備システムと空調設備を設置した。</p>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術品の活用・公開が十分であるとは言えない。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門知識を持った臨時職員1名を継続して雇用し、より多くの市内の公共施設において美術品の展示を行う。</li> <li>他の自治体の美術館における特別展などに作品を貸し出すことも検討する。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	美術館が無くなった後に収蔵品を活用するための体制を整えることができる程度できた。これにより、今後の本市の文化振興に美術品が活かされていくものと考ええる。			
A	A				

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(3) 公民館事業	0	0	0	
事業実績及び効果	<p><b>高齢者学級「もも倶楽部」</b> 参加者40名          6月 夕張のまちづくりについて / 7月 エンディングノート書き方講座          8月 ちぎり絵を楽しもう / 9月 視察研修 旭川市科学館・サイバル          10月 音楽の世界を覗いてみよう / 11月 お正月飾りを作ろう          12月 夕張から学ぶ大地の歴史</p> <p>24年度に引き続き開講曜日を変更したことにより参加希望者が定員となった。高齢者に生涯学習の機会を提供するため行政や関係機関と連携し、生きがい・健康をテーマとした講座や講演を計画的に提供している。運営は受講者の負担金のみで実施している。</p> <p><b>雪月花展</b>（7月17日～20日）出品者18組72名、観覧者253名  <b>新春書初大会</b>（1月10日）参加者7名  <b>短詩文芸大会</b>（1月24日）参加者15名          例年の事業となっている、雪月花展、新春書初大会、短詩文芸大会は、主催者としてではなく開催協力者として関わり、市民主体での交流を促進している。会員の市外転出と高齢化、また学習の個人化が進む中において、サークル等への会員増は難しい状況である。書初大会は、日程調整と書道連盟の働きかけにより、前年に比べ参加者は増えたが、できれば小学校と連携した事業となると良い。また、雪月花展は出品者の減少が否めなく、教委有志で1作品を出品した。実行委員会及び他の出品者からも喜んでいただけたようである。</p> <p>24年度からの継続事業として、英会話教室・出前講座・新入学児交流事業「みんなともだち」を実施、さらに25年度新規事業として小学生を対象にキッズアスリートスクールを実施した。</p> <p><b>英会話教室</b>（4月～7月 全6回）参加者16名、（11月～3月 全8回）参加者15名  <b>出前講座</b>（1月～3月・希望する老人クラブ対象）実施回数7回・参加者延べ77名  <b>みんなともだち</b>（①11月10日 レクリエーション）参加者28組          （②12月8日 ものづくり・講話）参加者19組  <b>ゆうばりキッズアスリートスクール</b>（3月8日・9日 全2回）参加者延べ64名</p>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル等の構成メンバーの固定化・高齢化。</li> <li>・新規事業の実施によりスポーツ講座の必要性が高いことが確認できたが、講師については夕張高校体育教諭の全面協力により実現したものであるため、継続にむけた環境整備が重要。</li> <li>・展示パネルの修繕等</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業は市民が心豊かに生活し、生きがいを感じることができる事業として非常に重要であるが、人的には厳しい状況であることから事業内容を精査し実施していく。</li> <li>・子どもの体力や生活習慣に重点を置いた事業の実施。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も市民主体で事業を進めるとともに、事業の内容がより充実したものとなるよう努める必要がある。</li> <li>・懸案であった公民館の料金体系については、展示による継続利用料金を新設することで、文化団体が利用しやすい環境となった。</li> <li>・夕張高校の協力により、新規事業「ゆうばりキッズアスリートスクール」が開催できた。体育部門の専門職員不在が続く本市において、スポーツ講座の開催は長く危惧されていたことであり、その必要性は参加者の多さからも窺えるものであった。</li> </ul>			
A	A				

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(4) ふるさとギャラリー事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>4月 渡場実希習字展                      5月 斎藤清の版画と佐藤忠良、畠山哲雄の素描展（5/16～佐藤忠良「母の顔」展示）                      6月 ボランティア愛ランド歓迎ポスター展                      7月 保育園児の夏の作品展（保育協会）                      7月～8月 畠山哲雄と小林政雄の炭鉱風景展                      9月 絵画4人展                      10月 滝平二郎、手島圭三郎の版画を中心に                      10月・11月 花暦（押し花）展                      11月・12月 緑風展（夕張高等養護学校）                      12月 保育園児作品展～おとぎばなし                      1月～2月 間野聡美習字展                      3月 坂本江里習字展</p> <p>・市民の作品の展示会場として定着してきたことで、年間を通じ使用頻度が非常に高くなった。                      ・作品を発表することで充実感を得ることができ、さらなる創作意欲へとつながるものと思われる。また、作品を鑑賞した側にも大きな影響を与え得ることから、市民の文化活動の活性化へ大きく貢献できる事業である。さらに、癒しや安らぎの空間としての機能も十分に果たしている。                      ・保育協会の展示については年3回の希望の内、1回は公民館での実施希望であったため、10月に公民館ロビーを利用し実施した。公民館は土曜日、また平日も午後7時まで開館しているため保護者からも好評だった。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を発表する市民の発掘、情報の把握が必要。</li> <li>・展覧会の満足度を高められるよう、展示の工夫などの適切なアドバイスを行える職員の学習が必要。</li> <li>・利用団体の固定化がみられる。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく多くの方が展示機会が持てるよう、また多くの方に見てもらえるような場所にしていくための周知方法も検討が必要。</li> <li>・展示スペースの拡大。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎の空きスペースを活用したギャラリーとして、市民の認知度が高まってきている。</li> <li>・今年度は3回の収蔵美術品の展示を実施することができた。</li> </ul>				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(5) 生涯学習推進プロジェクト事業・わくわくプロジェクト事業	0	0	0		
事業実績及び効果	<p>①生涯学習推進プロジェクト事業内容</p> <p>参加者</p> <p>6月 キッチンガーデン暮らしにハーブを 11名</p> <p>7月 エンディングノート『私の歩いた道』書き方講座 60名</p> <p>9月 夕張再発見！ズリ山ハイキング 11名</p> <p>10月 夕張記録をつくろう 16名</p> <p>11月 図書まつり（工作コーナー） 37名</p> <p>事業は平成19年度に設立した生涯学習馬場基金と参加者負担金で運営。 社会教育委員経験者を中心に社会教育関係職員、市民等でスタッフを構成。 毎月、生涯学習カレンダー「まなび〜ば」を発行し幼稚園、保育園、小・中学校に配布。 保護者への生涯学習の情報提供を通じ学習意欲を高める手助けをしている。 また実際に講座や体験事業を企画運営し、生涯学習の楽しさを広める実践をしている。</p>					
	<p>②わくわくプロジェクト事業内容</p> <p>参加者</p> <p>夏・9講座（やってみよう エッグアート他） 141名</p> <p>冬・8講座（キラキラ光るサンキャッチャー他） 74名</p> <p>特別企画活動・バードハウス設置会 10名 （NPOフェザードフレンド・NEXCO東日本と共催）</p> <p>わくわくクリスマス会 44名</p> <p>事業は「読売光と愛の事業団」からの助成金と参加者負担金で運営。 学校教育関係者・社会教育関係者・児童福祉関係者で実行委員会を構成。 平成9年度設立。当初は美術館事業。幼児・小中学生を主に、芸術的な体験の場を創出している。 学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営を目指しており、各実行委員の学びの場でもある。</p>					
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者はリピーターが多いので、新規参加者を開拓するため、より広い分野の講座の開催が求められる。</li> <li>・①は委員の多忙と主体性の低下、②は学校の統合による教員数の減少に伴う人材不足があり、ともに組織としては停滞化が否めない状況がある。</li> <li>・②の助成金は平成28年度までとなり、それ以降の財源見通しは立っていない。</li> <li>・社会教育関係職員もスタッフの一員であり、団体の活動趣旨と運営の利便を考え市教委で事務局的な補佐をしている部分もあるが、あくまで市民団体の活動であり、勤務時間外の活動はボランティアとなっている。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容をより多様なものとし、時代に即した事業も交え、生涯学習社会構築の一助となるプロジェクトを目指す。</li> <li>・市外に異動した実行委員に、より積極的に参加してもらうように働きかける。</li> <li>・委員以外の人々のアイデアも取り入れるなど講座の幅を広げる。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	社会教育関連事業の予算がない中「社会教育事業」を進める上で市民団体との連携事業は不可欠なものとなっている。そのことから、本事業の果たす役割は極めて大きいと言える。				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育	社会教育・社会体育
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(6) 文化財保護事業	0	0	0	
事業実績及び効果	<p>市指定文化財である「採炭救国坑夫の像」の部分的な修復を、道都大学教授の協力を得て文化財保護委員とともに実施した。</p> <p>夕張岳に関しては、夕張岳関係者協議会を開催し、天然記念物「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」の保護・保全について関係各位と意見交換を行った。</p> <p>高山植物盗掘防止のための監視・キャンペーン活動が、空知総合振興局が主体となって計3回実施されたが、キャンペーン活動に1回参加できたのみである。監視活動（登山）に1回参加する予定であったが、雨天のため中止となった。</p> <p>天然記念物の現状変更許可申請（3件）については、適切に処理を行った。</p> <p>本市の文化財候補にも挙げられている滝ノ上の竜仙峡で見られる地層を用いて、ゆうばり小学校6学年の理科の時間で講義を行った。その際に、併せて夕張市内で産出した化石の実物標本の解説も行った。</p>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護事業に対しては予算措置がなされていないが、最低限の維持管理は必要であるため、今後、予算措置や人員確保について検討していく必要がある。</li> <li>長く観光施設であった石炭博物館が6月に社会教育施設として位置づけられたが、博物館本来の機能を持つようになったとは言えない。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護に関わる予算要求を検討するとともに、文化財保護活動への市民参加を促していく。</li> <li>また、文化財の現状の確認及び文化財候補の調査を行い、それらを用いた市民への普及活動も実施していくとともに、市民団体等との連携を深める。</li> <li>社会教育施設となった石炭博物館を普及活動の場として利用できるようにしていく。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	<p>予算がなく人員も不足している状況ではあるが、文化財保護委員と協力しながら文化財の応急処置を行うなど、一定の成果を上げることができた。今後多くの機関と連携した活動を推進していく必要がある。</p> <p>また、石炭博物館を再生させるための協議も必要である。</p>			
B	B				

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	7 文化振興	担当課	教育課	学校教育・ <b>社会教育</b> ・社会体育		
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)		
	(7) 図書コーナー事業	113	100	13		
事業実績及び効果	<p>①子どもへの読書支援 月1～2回乳幼児健診会場での読み聞かせ・絵本紹介 道立図書館・読み聞かせボランティアの協力による学校ブックフェスティバル 週1回小学校での朝の読み聞かせ 乳幼児健診会場では親子が絵本を読みあうのが見受けられ、小学校では子ども達が読み聞かせに集中していることから一定の効果があがっている。</p> <p>②学校図書室整備 中学校の図書の整備も購入・寄贈の都度、図書コーナーで行なっている。学校図書室に、図書コーナーとボランティアが積極的に関わることによって、小中学校ともに図書室の利用が増えている。</p> <p>③図書まつり 平野美和子さん語り（読み聞かせボランティア協力） 読み聞かせボランティアによるおはなし会 工作コーナー（ゆうばり生涯学習推進プロジェクト協力） 四季の花をテーマにした絵本の展示（道立図書館協力） 図書コーナー夜間開館（ゆうばりカルチャーナイト実行委員会協力） 各市民団体や道立図書館の協力により、大盛況のイベントとなった。</p> <p>④古本市 図書コーナーおよび南支所に除籍図書を並べ市民に持って行ってもらう事業。利用者からは好評である。普段図書コーナー等の利用がない市民も立ち寄りなど、施設の広報活動が盛んに行われている。</p> <p>⑤第1次子どもの読書活動推進計画の推進 平成25年4月策定の計画に基づき、関係者と情報共有や連携を深め、読書環境の整備、読書支援を推進。</p>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報ゆうばりに図書コーナー通信を「ほっとひといき 本とひととき」として掲載。年1回の掲載となってしまったが、年数回、定期的に掲載するようにしたい。</li> <li>・郷土資料の整理が不十分で、利用者の調べものに充分応えられなかったり、或いは時間がかかる現状がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に大きな力となっているボランティア団体へ、事業への協力を引き続きお願いする。</li> <li>・市民の読書活動を支援情報発信の場となっている図書コーナーを、資料の収集・展示の面でもより充実したものとなるよう努める。</li> </ul>					
教育委員会の自己評価						
事業達成度	事業効果	ボランティア団体の活発な活動により、図書コーナーの事業が成り立っている。 子どもへの読書支援を継続しながら、一般市民への啓発活動及び情報発信も充実させることとしたい。				
B	A					

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（総括表）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
目的及び概要	子どもからお年寄りまで、市民があらゆる機会を通じて気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、生涯スポーツに適した環境の整備を推進するとともに、施設利用者の利便性を考慮し、合理的な施設運営に努める。				
平成25年度の主な事務事業名及び決算額	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(1) 文化スポーツセンター管理	22,525	20,902	1,623	
	(2) 平和運動公園管理	7,659	6,994	665	
	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）	2,204	2,051	153	
	(4) 清水沢プール管理	1,797	1,650	147	
事業実績及び効果	別紙細目（1）～（4）のとおり				
課題	別紙細目（1）～（4）のとおり				
今後の方向性	施設利用上の支障や事故が起きないように適切な管理運営を行う。また、全ての来館者に気持ちよく利用してもらえよう、施設を使う人の利便性を第一に考えた運営に努めることにより、近年減少傾向にある利用数の増加を目指す。 老朽化している設備のうち特に緊急性の高いものについては、修繕の予算を確保するよう努めるとともに、引き続きネーミングライツによる新たな財源確保を図りながら、より良い環境を作り上げていく。				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	一部のスポーツ施設については老朽化が進んでおり、利用者に不便をかけている面もあるが、最低限の予算と限られた職員体制の中、創意工夫をしながら施設運営を行うことで、スポーツの振興・健康の増進のみならず、合宿や大規模な大会などの開催で地域の活性化にも貢献していると言える。			
B	B				
評価委員会の評価判定及び意見					
判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化スポーツセンターについて、情報発信として「暮らしのカレンダー」にスポーツやレクリエーション等の行事が掲載され、更にはホームページなどで広く情報発信するなどの努力により施設利用者が、若干ではあるが増えたことに対し現場職員の対応を評価したい。設備の維持や利用者の安全確保には、老朽化している施設の修繕やそれに伴う予算措置を講じられたい。</li> <li>平和運動公園については、施設の素晴らしさは全国的に高い評価を得ており、大会や合宿などによる利用者も多くあり、地域経済の振興に寄与されていることは高く評価したい。</li> <li>ネーミングライツについては、施設の維持管理に必要な自主財源の確保の上からも、スポンサーの募集活動は継続されたい。</li> </ul>				
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育施設管理（指定管理施設）については、利用傾向としては前年度対比でやや増加が見られたのは、他の社会教育施設同様に利用者への広報やホームページなど、キメ細やかなPR活動による成果があったと思われる。夕張岳ヒュッテの建替え工事が終了し、平成25年9月供用開始となったが、周辺整備は継続して実施願いたい。なお、体育施設などの施設管理の継続について、行政と指定管理者との役割と責任体制をしっかりと確認していく必要があるのではないか。夕張岳ヒュッテの管理についても、協定書による無償管理委託とはいえ、夕張岳の林道の崩落や損傷の激しい状況を踏まえ、管理委託者と協議を重ね、安全対策を徹底させ、利用者への利便性に対応を願いたい。</li> <li>清水沢プールは、一般市民はもとより、保育園、幼稚園、小学校などのプール授業としての利用による教育効果がある。更には消防職員などによる水難防止訓練の「場」としての有効活用が図られ高く評価されている。</li> </ul>				



平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育 <b>社会体育</b>										
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)										
	(1) 文化スポーツセンター管理	22,525	20,902	1,623										
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>①情報提供 市民に漏れなく行事予定などを周知をするため、「暮らしのカレンダー」にスポーツ、レクリエーション等の行事を掲載するとともに、サークル紹介のポスター掲示等により情報提供に努めてきた。 また、随時更新している市ホームページで予約状況を確認できることから、市外からのスポーツ大会、合宿などについての問い合わせから申請までの手続きがスムーズになってきた。</p> <p>②設備維持管理 年数を経て施設・設備が老朽化し、利用者には不便を強いることがあると思われるが、対応できる限り修繕・整備を行ってきた。規模の大きなものとしては、暖房の配管の修繕工事（6,258千円）を実施した。 前年度よりもテニスコートの清掃回数を多く実施し、入れ過ぎていた砂を撤去した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>占用件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テニスコート</td> <td>45</td> <td>555</td> </tr> <tr> <td>スポーツセンター</td> <td>693</td> <td>15,425</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ネーミングライツ公募 （株）バイキューブシーと販売代理業務委託契約を締結し、販売推進に努めているほか、文化スポーツセンターに募集ポスターを掲示しているが現在のところ応募はない。</p>						占用件数	人数	テニスコート	45	555	スポーツセンター	693	15,425
	占用件数	人数												
テニスコート	45	555												
スポーツセンター	693	15,425												
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設や器具の老朽化による修繕や規格改正による備品の更新が必要となり、そのための経費が必要となる。</li> <li>現在、正職員1名の他に嘱託員1名、臨時職員2名を雇用し人員を確保しているが、繁忙期には人数的に厳しい状況となっている。</li> </ul>													
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツ及びレクリエーション活動に支障が生じないように、必要な情報提供と施設整備に努める。ネーミングライツについては、引き続き販売を推進し財源の確保に努める。</li> <li>施設の維持や利用者の安全確保に必要な事柄については、財政再生計画の変更も含めた予算措置を検討する。</li> </ul>													
教育委員会の自己評価														
事業達成度	事業効果	<p>人口の減少や少子高齢化、さらには施設の老朽化の影響により、文化スポーツセンターの利用数は減少傾向にあり、また施設の利用についても大会や合宿の規模も小さくなってきているが、利用者が安全かつ快適にスポーツやレクリエーションを楽しめるよう、環境整備と施設管理に努めている。</p> <p>また、テニスコートについては、合宿での利用が若干であるが増加し、市の経済の活性化の一助となっている。</p>												
B	B													

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育															
事業項目	項目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)																
	(2) 平和運動公園管理	7,659	6,994	665																
事業実績及び効果	<p>○事業実績</p> <p>①情報提供 文化スポーツセンターと同様、「暮らしのカレンダー」に開催される行事を掲載し、情報提供及び問い合わせの受付を行ってきた。 また、随時更新している市ホームページで予約状況を確認できることから、市外からのスポーツ大会、合宿などについての問い合わせから申請までの手続きがスムーズになってきた。</p> <p>②施設維持管理 陸上競技場を含め、4面のグラウンドと野球場を有し、全国的にも高い評価を得ている天然芝のグラウンドの維持・管理のために、利用の合間をぬって芝の補修・育成等のメンテナンスを行い、10月下旬より4面のグラウンド芝の一部を補修した。 サッカー、ラグビー、野球などの大会や合宿が開催されることにより、宿泊施設をはじめ、市内経済の活性化の一助となっている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>球技場</td> <td>113</td> <td>12,395</td> </tr> <tr> <td>陸上競技場</td> <td>26</td> <td>3,130</td> </tr> <tr> <td>野球場</td> <td>33</td> <td>1,874</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>172</td> <td>17,399</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ネーミングライツ公募 文化スポーツセンターと同様スポンサーの募集を行っている。</p>						件数	人数	球技場	113	12,395	陸上競技場	26	3,130	野球場	33	1,874	合計	172	17,399
	件数	人数																		
球技場	113	12,395																		
陸上競技場	26	3,130																		
野球場	33	1,874																		
合計	172	17,399																		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理のための予算が十分ではなく、維持補修費が不足している。</li> <li>過密なスケジュールでの利用で、グラウンドの芝に痛みが目立つため、芝の一部張り替え、芝生育成等ができるスケジュールの調整が必要である。</li> <li>施設の面積が広大であり、ボランティアの協力を得てようやく管理している状況であり、慢性的な人員不足を解消する必要がある。</li> </ul>																			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も施設の利用に支障が生じないよう、必要な情報提供と施設整備を行う。</li> <li>施設の維持に必要な事柄については、財政再生計画の変更も踏まえた検討を行う。</li> <li>財源確保のため、文化スポーツセンターと一体でネーミングライツスポンサーの獲得に努める。</li> </ul>																			
事業達成度	事業効果	<p>社会情勢などにより、施設利用における大会や合宿が小規模になってきているが、管理された天然芝は、利用者から高い評価を得ている。 また、大会や合宿が行われることで滞在人口が増加し、市の経済の活性化の一助となっている。</p>																		
B	B																			

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興		担当課	教育課	学校教育・社会教育 <b>社会体育</b>		
事業項目	項 目			予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）			2,204	2,051	153	
事業実績及び効果	<p>夕張市が再建団体となって、市直轄での体育施設管理が厳しくなり、平成18、19及び20年度から指定管理を行っているもの。</p> <p>体育施設管理の経常的な予算については、トラックの維持管理経費、施設の土地借料及び夕張岳登山口に設置されている簡易トイレのし尿処理料のみであったが、平成25年度より市営球場に係る除雪委託料（サポートセンター解散に伴う対応分）を計上。</p> <p>老朽化した夕張岳ヒュッテは、ユウパリオザクラの会により建替工事が実施され、25年9月より供用開始となった。それに伴い同年11月に旧ヒュッテの解体（臨時的経費として予算計上）を行った。新ヒュッテは、内装工事及び周辺整備を今後実施していく。</p> <p>○事業実績</p> <p>1. 指定管理施設</p> <p>①夕張市民健康会館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H25 3,693人 H24 3,078人</li> <li>・効果 サッカー・バドミントン・少年野球・ミパレなど、多様な競技に利用されている。</li> </ul> <p>②夕張市南部市民体育館（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H25 50人 H24 717人</li> <li>・効果 特定利用者のみであり、施設の意義については薄れつつある。</li> </ul> <p>③夕張市営野球場・緑が丘球場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H25 1,160人 H24 1,393人</li> <li>・効果 多くは市内チームの利用であるが、市外からの利用もあり利用頻度は高い。</li> </ul> <p>④夕張市紅葉山パークゴルフ場（指定の期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H25 2,917人 H24 3,280人</li> <li>・効果 開設以来パークゴルフの普及、発展に寄与していたが、管理に係る経費圧縮が限界となっていることから、平成26年3月31日付で指定管理返上となった。</li> </ul> <p>2. 協定書による無償管理委託の施設</p> <p>①夕張岳ヒュッテ（指定の期間 平成25年6月1日～平成26年3月31日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数 H25 191人 H24 295人</li> <li>・効果 避難小屋として、また安全な登山、事故等の救助拠点としての効果は高い。</li> </ul>						
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が進んでいる現状にあつて修繕経費の予算計上がなされていない状況は、今後の管理に不安を残す。在り方の検討が必要。</li> <li>・また、人口の減少もあり利用人員が減少傾向にあることから、管理経費が限界にきている状況になりつつあり、現に平成25年度末をもって指定管理返上を受けた施設もある。また、指定管理団体の高齢化が進み、会員の減少もあることから、管理運営について厳しい状況となっている。</li> <li>・さらに、登川プール及び市民健康広場のセンターハウスが解体できないため、借地している国有地を返地できない状況である。</li> <li>・加えて、夕張岳への林道が法面崩落及び落石防止網の損傷が発生したことから、車両通行止めとなり、利用者及び夕張岳ヒュッテの整備に支障をきたしている状況となっている。</li> </ul>						
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も指定管理及び協定書による無償管理委託については継続することとするが、施設老朽化の現状から在り方や代替施設への移行なども検討し、利用者の利便性を考慮するよう努める。また、管理者と協議しながら対応可能なものについては職員で対応することとする。</li> <li>・ヒュッテへの林道については、引き続き早期修復を森林管理署へ要望していく。</li> </ul>						
教育委員会の自己評価							
事業達成度	事業効果						
B	<p>予算が全く無い中で、各指定管理者は創意工夫をして施設の管理運営にあたっている。これは、夕張市のスポーツ振興の一助となっていることから、今後も各指定管理者と共通理解のもと、協力しあいながら管理にあたることとする。</p>						

平成 26 年度 夕張市教育行政点検評価表（細目）

事務事業名	8 スポーツの振興	担当課	教育課	学校教育・社会教育	社会体育
事業項目	項 目	予算現額(千円)	決算額(千円)	不要額(千円)	
	(4) 清水沢プール管理	1,797	1,650	147	
事業実績及び効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月末～8月の実質稼働日数57日間で、計2,752人が利用した。（内訳 幼児375人、小学生1,998人、中学生104人、高校生3人、一般272人） そのうち有料入場者は、高校生3人、一般141人の計144人で、収入は44,010円であった。</li> <li>・昨年度の利用者数の合計が2,084人であったため、668人（32.1%）の増員となった。原因としては、水泳教室が再開されたことが大きな要因である。収入も昨年度の16,920円から44,010円と約160%の増となっている。</li> <li>・屋内プールであるため天候に左右されにくいいため、低水温等で営業中止になることがなかった。</li> <li>・幼児用プールから水漏れが発生していたため、漏洩修繕を行った。</li> <li>・7月20日 夕張スイミングクラブ主催による中村真衣氏（シドニーオリンピック銀メダリスト）の水泳教室が開催された。</li> <li>・7月23日 消防署の協力を得て、小学校5・6年児童を対象に着衣泳の実技などの水難事故防止教室を行った。</li> </ul>				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水難事故防止のために監視業務が重要であり、夏休み期間中は常駐臨時職員の1名の他にボランティアによる監視補助員をつけているが、今後その人員確保が課題となる。</li> <li>・監視業務従事者（臨時職員）は変則勤務体制（2出2休）であり従事者を探すのが難しい。</li> </ul>				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内で唯一の水泳プールであり、子供たちが水に親しむ良い機会を提供していることから、必要な箇所の修繕や、事故・怪我のないように対応を行う。</li> <li>・施設の維持に最低限必要な事柄については、財政再生計画の変更も含め、必要な予算を確保する。</li> </ul>				
教育委員会の自己評価					
事業達成度	事業効果	小学生を中心に、多くの市民に水泳を楽しむ機会を提供し、小学校・幼稚園・保育園のプール授業にも貢献することができた。 また、児童、教職員等の水難防止訓練の場としても、貢献することができた。			
B	B				

## 資 料

- ・平成 26 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱・・・・・・・・・・・・ 52
- ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・ 53
- ・夕張市教育行政評価委員会実施要領・・・・・・・・・・・・ 54
- ・夕張市教育行政評価委員会開催経過・・・・・・・・・・・・ 55
- ・平成 25 年度夕張市教育行政執行方針

## 平成 26 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和 31 年法律第 162 号)の規定に基づき、夕張市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすために必要な事項を定めることを目的とする。

(点検評価の対象)

第 2 条 平成 26 年度における点検評価の対象は、教育委員会所管の事務事業のうち、平成 25 年度に実施した主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価する。

- (1) 安全安心な通学体制の整備
- (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- (3) 小・中学校教育の充実
- (4) 学校施設設備の整備
- (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
- (6) 幼稚園教育の充実
- (7) 文化振興
- (8) スポーツの振興

(事業の達成度及び評価の判断基準)

第 3 条 事業の達成度及び効果の判断基準は次のとおりとする。

- (1) 達成度の判断基準
  - A 事業が十分達成された (達成度 9 割以上)
  - B 事業が相当程度達成された (達成度 7 割～8 割)
  - C 事業の達成度がやや不十分である (達成度 5 割～6 割)
  - D 事業が達成されなかった (達成度 5 割以下)
- (2) 効果の判断基準
  - A 十分な事業効果が得られた (9 割以上)
  - B 相当程度の事業効果が得られた (7 割～8 割)
  - C 事業効果がやや不十分である (5 割～6 割)
  - D 事業効果が不十分である (5 割以下)

(点検評価表)

第 4 条 点検評価表の様式は別紙のとおりとし、教育委員会の評価は事業毎に担当者が自己評価し教育長が最終決定する。

附 則

この要綱は決定の日から施行する。

## 夕張市教育行政評価委員会設置要綱

### (設置)

第1条 夕張市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関し、客観性の確保と効果的な教育行政の推進を図るため、夕張市教育行政評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2条 評価委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 教育委員会が行う事務事業の評価に関すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

### (組織)

第3条 評価委員会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、教育について優れた見識を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を統括し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 評価委員会の会議は、必要に応じて教育委員会が召集する。

2 評価委員会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

### (意見の聴取)

第7条 評価委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。

### (庶務)

第8条 評価委員会の庶務は教育課学校教育係において行う。

### (その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定めるものとする。

## 附 則

この要綱は決定の日から施行する。

## 夕張市教育行政評価委員会実施要領

### 1 実施方法

前年度の教育行政執行方針等に掲げる取組み内容の達成状況及び進捗状況に対する教育委員会の自己評価について、次項の視点に基づき教育面での有効性の観点から評価判定と意見具申を行う。

### 2 評価の視点

- (1) 事業の妥当性
- (2) 客観的根拠に基づき自己評価しているか
- (3) 社会情勢に対応しているか

### 3 評価の区分

- A 順 調 (事業達成度 9 割以上)
- B ほぼ順調 (事業達成度 7 割～8 割)
- C 努力を要する (事業達成度 7 割以下)

### 4 点検評価表等の公表

夕張市教育行政点検評価表（自己評価調書）及び関係資料については、夕張市ホームページへの掲載等により随時公表する。

### 5 会議録記載事項

会議録に記載する事項は次のとおりとする。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 出席者の氏名
- (3) 議題
- (4) 個々の発言内容の要旨
- (5) 発言者の氏名
- (6) その他委員長が必要と認める事項

### 夕張市教育行政評価委員会委員名簿

氏 名	役 職 等	備考
藤 原 哲	元夕張市監査委員	委員長
小 網 敏 男	夕張商工会議所専務理事	副委員長
菅 原 孔 道	大乘寺住職	
横 川 孝 一	夕張市社会福祉協議会会長	
白 井 啓 裕	夕張市校長会会長	



平成 26 年度第 1 回夕張市教育行政評価委員会議事録

10 月 15 日（水） 15:30

夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員長・小網委員・菅原委員・白井委員  
小林教育長・古村課長・吉岡係長・高橋係長      ○進行 古村課長

1. 開 会

2. 教育長挨拶

大変ご苦労さまでございます。

今年の秋は紅葉も色鮮やかで良い秋を迎えていると感じております。

先週心配しておりました台風 19 号も北海道をそれて行ったようでありまして、そういう状況の中、本日第 1 回目の教育行政評価委員会を開催することに当たりまして、常日頃から皆様には教育行政全般にわたりご理解とご協力をいただいておりますことを厚くお礼申し上げます。

本年度の委員会ということですので、平成 25 年度の教育行政全般についてご審議いただくわけですが、25 年度は夕張ならではの新しい学校づくりを進めるための 3 つの柱として、ひとつは夕張市小中学校サポート会議の機能を活かして地域に開かれた学校づくりを推進する。

二つ目には、学校支援地域本部事業であります、数多くのボランティアの方に参加いただいております、年々充実してきているところでありますが、課題について更に充実をさせていく。

三つ目には、夕張市学校連携協議会ではありますが、主に学校の校長、教頭を中心にしながらそれぞれ幼稚園・保育所と小学校、あるいは小学校と中学校、中学校と高等学校、あるいは全体でということ連携協議会の活発化というような三つの柱を建てながらそれぞれ行ってきたところであります。

また、夕張市の読書活動推進計画の策定についても行ってきたところでありますけれども、私どもがやりたいことについて予算計上していたものも多々ありますが、なかなかそこまでいかない部分もありまして、25 年度全般がはたしてどうであったのかということ、ぜひこの評価委員会の中でもんでいただければと思っております。

昨年度皆様にご心配いただいた美術館の屋根崩壊に関わる課題についても、昨年度一定の指定管理との合意がなされ、25 年度の年度末に損害賠償金が支払われました。

それらを元に本年度当面して美術館の解体工事が行われているところで、ほぼ半分程度終了しているところですが、もう少し時間がかかるものであり、11月末までには終了する予定となっております。

これら社会教育に関わる事業も、25年度その美術館以後の対応については問題提起をして、昨年、今年と対応しておりますので、行政として十分やりきれないところもあったかと思えますけれども、全体として執行方針に基づいて行政を進めてきたつもりでありますので、ひとつ十分なお意見をいただければと思います。

限られた時間の範囲の中ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3. 委員及び事務局職員紹介

(各自) ※ 以降進行 藤原委員長

### 4. 報告事項

(古村課長説明 平成26年度教育行政の執行状況に関する点検評価報告書 52～54ページ)

- (1) 平成26年度夕張市教育行政評価実施要綱
- (2) 夕張市教育行政評価委員会設置要綱
- (3) 夕張市教育行政評価委員会実施要領

### 5. 協 議

(古村課長説明)

#### (1) 平成26年度夕張市教育行政点検評価表について

平成25年度教育行政執行方針を踏まえ、25年度に行った市教育委員会の事業の内、8項目（安全・安心な通学体制の整備、地域全体で学校を支える体制の充実、小・中学校教育の充実、学校施設設備の充実、児童生徒の健康管理及び学校給食の充実、幼稚園教育の充実、文化振興、スポーツの振興）について、各項目ごとに目的及び概要、主な事務事業名、予算決算額、事業実績及び効果、課題、今後の方向性、事業達成度及び事業効果の自己評価について（資料4ページ～50ページにより）説明した。

#### (2) 評価の進め方について

8項目を各委員で分担し案を提出いただき、全体で討議し評価委員会の評価判定と意見具申を行い、点検評価表（総括表）を完成させる。

- ・ 白井委員 → (1) 安全・安心な通学体制の整備、(3) 小・中学校教育の充実
- ・ 横川委員 → (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- ・ 菅原委員 → (6) 幼稚園教育の充実
- ・ 小網委員 → (7) 文化振興、(8) スポーツの振興

- ・藤原委員 → (4) 学校施設設備の充実、(5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

(3) 今後のスケジュールについて

議会に報告書を提出し、同時に夕張市ホームページで市民の皆様に公表したいと考えている。

次回委員会で評価委員会の評価判定と意見具申の協議を行う。

3回目の委員会ではまとめと最終確認を行い確定する。

- ・第2回委員会 10月30日(木)午後3時30分
- ・第3回委員会 11月13日(木)午後3時30分

(4) その他

各委員が担当した評価と意見の素案については、第2回目の委員会前の10月24日まで事務局にお届け願いたい。

(質疑)

- ・白井委員: 幼稚園については、今後環境改善は極めて厳しいという書き方ですが、教育委員会、市としてどのような検討がなされ、今後どのような検討を行っていくのか、今までの経過と今後の見通しがあれば聞かせていただきたい。

- ・古村課長: 幼稚園については非常に難しい問題。

園児数についても減少傾向にあるが、幼稚園の頑張りで現在はある程度の人数は確保できている。

ただ、今後減少していくことは明らかであり、そこをどうしていくのが課題。

今後、認定子ども園等について教育委員会と福祉課を含め協議を進めて行かなければならない。

今年度は施設の耐震診断を行っている最中であり、結果を見ながら今後について協議。

コンパクトシティーに関わって、民営化を含め幼稚園施設を考えていく。

6. 閉 会

10 月 30 日（木） 15:30  
夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員長・小網副委員長・横川委員  
古村課長

○進行 藤原委員長

1. 開 会

2. 協 議（事務局説明）

（1） 評価委員会評価及び意見について 別紙

第 1 回評価委員会において各委員で分担した評価項目について、全体での協議を行った。

● 1 安全安心な通学体制の整備（白井委員）

藤原委員長：私もバス添乗を行っていたこともありましたが、白井委員が評価していることについては理解できる。

ただ、登校時はボランティアの方々がバス停にいて、指導を行いながら見守っておられますが、下校時にはなかなかボランティアの方の見守りが少ない状況に思う。

全国的に見ても下校時の事故が多いように思うので、見守り隊に行っていたらありがたい。

事務局：小学校、中学校により下校時の時間帯が曜日や授業時数によっても違ってくるし、学年によっても違ってくる。

ボランティアの方々も全便にということは難しい。

小網副委員長：ボランティアの方々は何名くらいいるか。

事務局：結構な人数は登録されておりますが、ボランティアですので、自分の都合のつく時にとお願いしている。

ですので、年に数日という方もおられますし、毎日出てきていただいている方もいる。

私どもも、ボランティアですから、無理しないで行ってほしいとお願いしている。

学校も統合後 3、4 年たち、子どもたちもバス通学に慣れてきているし、バス通学が始まったころに比べると問題も少なくなっている。

また、学校でもバスを利用するときのマナーについても指導を行ってい

る。

評価：B

● 2 地域全体で学校を支える体制の充実（横川委員）

横川委員：新聞報道で学級定員数を増やすという記事を見たが、学校がどうなるのか。また、高校問題ですが、正式には決まっていないのかもしれませんが、どういう方向になるのか。夕張高校の閉鎖であるとかという話もあったようだが。

事務局：まず学級定員ですが、基本は1学級40定員であります。1年生については35定員、2年生については各市町村の状況において35定員にもできる決まりになっている。

夕張市の場合1年生は35定員で2学級、2年生も少人数学級の申請を行い、35定員として2学級となっている。

ただ、今後の子どもの数から考えますと、全学年40定員になったとしても、ゆうばり小学校には影響は出てこないと思っている。

夕張高校についてですが、道教委の考え方として1学年20名を切れば廃止も考えるということですが、単純にではなく、地域性などを考慮しながら検討することになると思う。

しかしながら、地域キャンパス校という考え方は進めて行かなければならないだろうとは思っている。

藤原委員長：中学校を卒業して市外にでていく生徒の数は多くなっているか。

事務局：増えている。

3年前までは80%以上の生徒が夕張高校へ進学しておりましたが、ここ2年間については70%を切っている状況。

その一因としては、スポーツ関係で自分がやっているスポーツを一生懸命頑張っている学校へ進学したいと思う生徒が増えている。

評価：B

● 3 小・中学校教育の充実（白井委員）

藤原委員長：特別支援学級に在籍する児童生徒が最近増えてきているか。

事務局：急激に増えているということはありませんが、特別支援学級に入らなくても支援の必要な子の割合が多くなってきている。

現在は、できるだけ普通学級でという方向性ですから、保護者の承諾がなければ普通学級へとなるので、どうしても普通学級の中での支援が必要となる子の割合が多くなってしまふ。

そうなれば、その支援をするための支援員の増員が必要ではないかという意見である。

事務局：ハザードマップについては今年度全戸配布されているし、ことばの教室の指導員に係る研修については現在検討中であるので、お含みおき願いたい。

評価：B

● 4 学校施設設備の整備（藤原委員長）

藤原委員長：ダム決壊についてですが、どうしても低い位置に学校があるので、たとえば清陵町の高い所に避難所があればと思ってしまうのだが。

事務局：ダムが決壊するという事になれば、市全体が崩壊するほどの災害であると考えている。

事務局：コンパクトシティの造成に関しての意見についてですが、今年度も南清水沢3丁目の中学校の下当たりになるが、住宅建設工事等が行われているけれども、事前に学校、工事関係者、建設課、教育委員会が打合せを行って、登下校時に工事車両の通行を停止するなどの対応をし、安全に対して配慮している。

また、道路の拡張工事も行われているが、今までは歩道がなかったが、今後は両側に歩道が付くことになる。

小学校の重複障害の児童ですが、今年度南幌養護学校に転校してるのでお含みおき願いたい。

評価：B

● 5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実（藤原委員長）

藤原委員長：全体を検証したときに、献立やアレルギー問題への対応について一生懸命頑張っている様子が見えるし、給食事故もまったくないので、評価は高くてよいと思うが。

横川委員：他のことと違って、健康管理と給食の問題なので、よろしいのではないか。

子どもたちの中で、給食の中でこのようなものは食べられないということはないか。

事務局：あります。アレルギーの場合が当てはまると思うが、学校では年度当初に保護者から聴取を行い、それに対応はしている。現在1名がお弁当対応をしている。

藤原委員長：学校での給食事故がないということだけでも指導監督ができてということだと思う。

評価：A

● 6 幼稚園教育の充実（菅原委員）

藤原委員長：若い方々が減っていくとどうしても子どもの数も減っていきますね。

横川委員：現在園児は何名か。

事務局：現在は25名です。

園児の確保、また先生の確保について大変苦労している。

他でもそうですが、全体的に人材の確保が厳しくなっているのが現状です。

藤原委員長：学年はどうなっているのか。

事務局：5歳児で1学級、3・4歳児で1学級、併せて2学級になっている。

先生は2名です。

横川委員：現在の建物はかなり古いと思うが、将来的に市として幼稚園を続けていくのか。

事務局：現状では幼稚園をなくするというにはならないだろうと考えている。

建物に関しては、現在耐震診断を行っている。

今後の対応について協議を進めて行く。

横川委員：保育園といっしょにすることはできないものなのか。

事務局：認定子ども園という形では可能である。

問題はだれが運営を行うか、運営を行う方がいるのか、どうするのがタ張市では一番良いのかという検討や協議が必要になる。

小網副委員長：今いわれているのは幼保一元化で、コンパクトシティにも関わることでもあると思うが、幼稚園も保育園もひとつの建物の中でというような話もある。

いずれにしても喫緊の問題であると思う。

評価：B

#### ●7 文化振興（小網副委員長）

小網副委員長：社会教育の予算がない中でこれだけのことを良く行っていると思う。

特に生涯学習プロジェクトでは皆さん手弁当で参加いただいております、この事業は評価できると思う。

図書コーナーについては、メリハリをつけて、図書まつりであるとか小学校での読み聞かせだとかについても評価して良いのではないかと思います。

よくこれだけの事業をこなしていると思う。

事務局：図書コーナーですが、図書についても今年度から計画的に予算を組んで児童書の購入を行ったり、子ども用の書架やクッションなどの備品も少しずつではあるが整備を進めている。

評価：A

#### ●8 スポーツの振興（小網副委員長）

事務局：ネーミングライツについては、今年度平和運動公園と文化スポーツセンターについて応募しやすい金額での再募集を行ったところであり、その結果、平和運動公園についてはサングリン太陽園様にスポンサーになっていただいたところである。契約については3年間である。

夕張岳ヒュッテについては、ヒュッテについてはできあがっているが、炊事場については今年度から手をつけ始めたところである。

旧ヒュッテを取り壊したスペースに新しく炊事場を建設中である。

夕張岳ヒュッテへ行くまでの林道については、昨年春からがけ崩れによりヒュッテ手前7km手前にゲートが設けられ、車輛の通行ができない状況が続いていたが、今年の9月に改修工事が終了したところである。

#### 評価：B

各項目の評価については、協議の結果を踏まえ、事務局で整理し最終的な評価と意見のまとめとする。

#### (2) 評価委員会の総評について

評価委員会として教育全体に関わるまとめの文章については、各委員からの総括的な意見を頂き、それを事務局が取りまとめる形で総評とする。

小網副委員長：予算が限られた中で本当によくやっていると思う。

藤原委員長：子どもが減少する中、今後幼保一元化についても議論を進めて行ってほしい。

小網副委員長：夕張は高齢化が進み、日本一高齢者の多い市であるが、生涯学習のいきいき元気という観点からお年寄りの知恵の活用、発掘なども必要だと思う。

藤原委員長：財政や職員体制の厳しい中で、工夫しながら教育行政を進めていることを評価したい。

#### (3) 今後のスケジュールについて

各項目別の委員会評価と意見については、本日の協議内容を踏まえ、総括的な文章の原案を作成し、皆様にお示しいたしたい。

第3回委員会は11月13日（木）午後3時30分から開催する予定でしたが、白井委員が別の会議があるとのことから、午後4時30分からといたします。

なお、本件は定例教育委員会において協議決定し、市のホームページに掲載するほか、教育委員会事務局、南支所に配置して市民に周知するとともに、市議会に報告書を提出する予定。



(4) その他 (意見なし)

3 閉 会

11 月 13 日（木） 16:30

夕張市役所教育委員室

※ 出席者 藤原委員長・小網副委員長・菅原委員・横川委員・白井委員  
小林教育長・古村課長・高橋係長 ○進行 藤原委員長

## 1. 開 会

## 2. 教育長挨拶

すっかり日が短くなりましたが、それぞれお仕事を抱えた中このような時間帯にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

平成25年度の教育行政に関わる評価委員会ということで、この間色々ご議論いただいたかと思えます。

財政破綻以降今年が8年目となっておりますが、予算的に一定程度改善された部分と、依然として厳しい状況の中で事業を行わなければならない課題もあります。

この間、職員の数も当初から見ますとマイナス2名という状況になっております。

そういった中で、今回の議論の中でもご指摘がありましたように、幼児教育、いわゆる小学校に上がる前の子どもに関わる教育についても、今年度の教育行政執行方針でも触れさせていただきましたが、いよいよ待ったなしで議論を進めて行かなければならない状況にあります。

子どもの数が本当に少なくなってきたおり、本年度に入って生まれた子どもが16名でありまして、年度末では30名を割るのではないかと考えているところであります。

現在は保育所と幼稚園という形で、夕張ではそれぞれの役割を担いながら事業を行っている訳であります。少子化の中で、夕張が1万人足らずの人口の中でこういった方向に向かっていくかということも今年、そして来年にかけて大きな議論をしていかなければならないだろうと考えているところであります。

皆様には平成25年度について十分議論していただいたかと思えますので、ひとつ我々に対する叱咤激励も含めて今年度の取りまとめをお願いしたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 協議事項（古村課長説明）

#### （1）評価委員会意見の一部修正について

第2回の評価委員会では、皆様からの修正意見がなかったので、前回同様の内容となっている。

なお、一部文言に誤りがあったので、その部分については修正をした。

新たに修正の必要がる部分があれば、この場でご意見をいただきたい。

（質問・意見なし）

各事業項目別の判定評価は、本評価委員会としての最終意見とする。

#### （2）評価委員会のまとめ（案）について

評価委員会のまとめの文章については、前回各委員から出されたご意見を基に、原案を作成。（3ページ 5を読み上げ）

（質問・意見なし）

評価委員会の全体のまとめについてはこの原案をもって決定。

#### （3）その他

この点検評価報告書については、11月の定例教育委員会において提案し、了解をいただければ議会への提出を行い、12月1日に市のホームページに掲載する予定。

なお、広報ゆうばり12月号に、点検評価報告書の公開について掲載し、市のホームページでの公開及び市教育委員会及び南支所に報告書を1部ずつ置き市民へ公表することについて周知する予定としている。

その他ですが、今回の委員の皆様については今年度で任期満了となります。

新年度は、また新たに委員を委嘱することになるが、お声を掛けさせていただいた場合はよろしくお願ひしたいと思う。

### 4. 閉会

藤原委員長：それではこれで第3回の評価委員会を終了いたしますが、長時間また長期間にわたってご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

事務局：評価委員皆様誠にありがとうございました。

平成25年第1回定例夕張市議会

平成25年度 教育行政執行方針

平成25年3月8日

## 平成25年度 教育行政執行方針

新しい学校づくりの推進	-----	1
心豊かな人と文化を育む		
生涯学習社会の推進	-----	8

平成 25 年度の教育行政執行方針をご審議いただくにあたり、その大綱を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

教育基本法は、「教育は人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成にある」と、その目的と基本理念を明確にしているところであります。

この理念を踏まえ、市民の信頼と期待に応えるために必要な教育環境を整備し、教育の質を高めていくことは極めて重要であります。

地域人口の減少、社会構造の変化など厳しい状況下にあっても、地域の暖かい眼差しの中で、未来を担う子ども達が人間性豊かで創造性にあふれ、心身ともにたくましく成長していくよう取り組むとともに、市民一人ひとりが生涯にわたり文化やスポーツに親しみ、学習し、生きがいを持って生活できる生涯学習社会を展望しつつ、教育行政を推進してまいります。

## 新しい学校づくりの推進

「自然豊かな緑の大地と炭鉱（やま）の歴史、そこに住む市民の苦闘の歴史により築かれた郷土「夕張」に誇りをもち、自主・自立の精神に満ち溢れ、心豊かに共に支えあい、夢や希望

に向かって逞しく生きる人を育む」ことを基本理念としながら、小・中学校一校体制のもと、地域の方々との連携と協働を通し、夕張ならではの新しい学校づくりに取り組んでまいります。

第一には、学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させるなど、地域の協力を得て学校を運営するため、「夕張市小・中学校サポート会議」の機能を十分に活用し、地域に開かれた学校を基盤として、地域の特性や課題をもとに、生きる力と心のふれあいを育むことのできる教育をめざします。また、教育活動の成果を診断・評価する「学校評価」の結果を公表し、ご意見をいただく中で特色ある学校づくりに取り組んでまいります。

第二には、地域の教育力を活性化するため、「学校支援地域本部事業」の充実をはかり、夕張市全体で学校教育を支援する地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

第三には、幼・小・中・高校間の連携を深めるため、「夕張市学校連携協議会」の機能を活用し、各学校間の情報の共有化をはかるとともに、夕張の子ども達を共に育てるという視点に立ち、地域の人々の期待と信頼に応える教育活動の充実に努めてまいります。

小・中学校においては、学ぶことに楽しさや成就感をもち、基礎的な力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体験的な学習、地域の自然・社会の素材を活用した学習や総合的学

習の時間の充実をはかります。学習や生活面での特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりに対し、きめ細やかな指導と支援を行うため、小学校における特別支援教育支援員の配置時間を拡充してまいります。また、外国語指導助手（ALT）を活用した中学校での外国語教育の充実と、小学校における国際理解教育・外国語活動の推進に努めてまいります。

小学校にあっては、児童の学習・学力の向上をはかるため、十分な調査・分析をもとに、個々の児童の状況を把握し、学習した内容が確実に身に付くよう取り組みを進めるとともに、学校支援ボランティアなどとも連携し、児童の学力・体力の向上に努めてまいります。

中学校においては、近隣の市町と連携し、デジタル教材やeラーニングシステムの活用により、生徒の授業や自学自習への関心を高めることを通じ、基礎学力の向上につなげてまいります。

読書活動につきましては、子ども達の情操を育み、より豊かに生きるための力となることから、学校、幼稚園、保育園、保護者など関係者が同じ目標に向かい、計画的に読書環境を整えるよう「夕張市子ども読書活動推進計画」を策定いたします。また、学校図書室の蔵書については、標準蔵書数を踏まえ、計画的に整備を進めてまいります。こうした取り組みを通し、学校や家庭で読書に親しむ機会を増やすとともに、図書コーナー



との連携や巡回文庫の充実など、読むことに対する興味・関心を高めてまいります。

生徒指導につきましては、子ども達が明るく、元気に学校生活を送れるよう教職員が一体となり、子ども達の悩みや苦しみの早期発見、早期対応のために、定期的な相談日の設定や、日々コミュニケーションを深める体制を充実するとともに、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、情報の共有と専門性の活用をはかり、非行やいじめ、不登校の未然防止など、生徒指導の課題解決に努めてまいります。

教材・教具、備品等の整備や校舎等の維持補修など教育環境整備につきましては、総合学習や情報教育などに活用している小中学校の児童生徒用パソコンを更新するほか、校舎の長寿命化に向けた計画的メンテナンスの実施など、児童生徒の学習活動に支障がないよう努めてまいります。

児童生徒の健康と安全指導につきましては、生命の尊さ、体力の向上、運動能力の助長や健康で安全な生活を営む能力を育成するため、武道を含め体育授業の充実をはかるとともに、関係団体とも連携し、学校における防災教育や交通安全指導の充実に努めてまいります。また、不審者情報や熊出没情報などを保護者に通知する、ICTを活用した「一斉同報サービス」の一層の普及拡大をはかり、児童生徒の安全・安心の醸成に努め

てまいります。

児童生徒の通学につきましては、学校、家庭、市民ボランティア及びバス会社など関係機関と連携し、安全・安心な通学体制を地域ぐるみで確保してまいります。また、乗車マナーや安全な乗降を指導するバス添乗員を配置するとともに、ICTを活用した「登下校情報サービス」の一層の普及に努めてまいります。通学路の安全確保や交通安全施設の整備につきましては、引き続き関係機関に要望してまいります。通学に関わる新たな課題につきましては、関係者で構成する「夕張市通学方法等検討委員会」を活用し、情報の共有をはかると共に、十分な検討を行い、児童生徒と保護者の目線に立った対応を行ってまいります。

特別支援教育につきましては、対象児童生徒の集合学習や宿泊学習を実施するなど、社会とのさまざまな交流の場を設けるとともに、「夕張市特別支援教育連携協議会」の機能を活用し、支援を必要とする児童・生徒に対する理解や協力を、より多くの方々が共有できる仕組みづくりに努めてまいります。

学校保健につきましては、学校・保健所・医療機関などと緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防対策に努めるとともに、北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、幼稚園並びに小学校

において児童の虫歯を予防する取り組みを進めてまいります。

学校給食につきましては、地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れ、児童生徒の発達段階に即した献立の充実など、自校方式の利点を最大限生かす中で、子ども達に喜ばれる給食を提供してまいります。また、食の指導計画と実践を通して、食に対する興味と関心を高めるなど、食育の充実に努めるとともに、保健所など関係機関と緊密に連携し、食中毒など給食事故を防止し、安全で安心な学校給食を提供してまいります。

これら学校教育の充実のため、教職員が自らの使命と専門性を高めるとともに、児童・生徒の学力向上に向け、日常の教育実践や工夫を積極的に行ってまいります。また、学校内外における授業研究と共同研究の推進、その公開等、研究・研修の充実をはかり、教職員の資質向上に努めてまいります。

教職員人事につきましては、学校統合、学級減による激変緩和措置及び、学級編制基準や定数増の改善等を北海道教育委員会に要請するなどして、教職員配置の適正化をはかってまいります。

教職員の健康管理では、生活習慣病や心の病の未然防止に努めるとともに、早期発見のための検査等を積極的に進め、疾病

の早期治療を働きかけてまいります。

ユーパロ幼稚園につきましては、創造性にあふれ、心豊かな子どもを育成するため、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、様々な人々との触れ合い体験による社会性の育成に努めてまいります。また、老朽化した遊具を更新するほか、「英語で遊ぶ」「自然に学ぶ」など「学び」と「遊び」を中心とした教育課程の充実をはかるとともに、地域のボランティア団体と連携し、本の読み聞かせなどによる読書意欲の向上や、幼児を対象とした企画を通し、就学時の安心感を醸成するなど、魅力ある幼稚園づくりを進めるなかで、引き続き園児の確保に努めてまいります。

中学生の減少は今後も続く見込みであることから、本市の後期中等教育の将来的なあり方と、より良い形での高校の存続に向け、夕張市高等学校対策委員会などでの論議を通して、広くご意見をお聞きし、必要な対応と方向性を明らかにしてまいります。

## 心豊かな人と文化を育む生涯学習社会の推進

生涯学習の推進につきましては、第5次社会教育中期計画の基本理念と方針に基づき、生涯学習の観点に立った社会教育行政をとり進めてまいります。

市民が心身ともに豊かで、健やかに、潤いのある生活を営むために社会教育が果たす役割は大きなものがあります。文化団体・体育団体・各種市民団体やサークルなどとの連携をはかり、その活動を支援し、文化・芸術の振興に努めてまいります。

社会教育の対象は幼児から高齢者まで極めて幅広く、そのニーズも多種多様なものがあります。しかしながら、財政再生における厳しい状況下にあっても、そのニーズに応えることもまた、教育行政に求められているところでもあります。そのため、生涯学習関係の市民グループや北海道教育大学岩見沢校との継続的な支援・協力による学習機会の提供などの取り組みを推進してまいります。

青少年教育につきましては、全市横断的な子どもとの交流を促すなかで、社会的ルールや自主性を身につけ、思いやりの心を育んでいくことが重要であり、家庭や関係団体と連携し、地域ぐるみで子どもの健全育成に努めてまいります。

また、子ども達が生の舞台芸術など優れた芸術作品に接する機会を設け、豊かな情操を育むため芸術鑑賞事業の充実をはか

るとともに、全市の児童生徒と市民文化グループとが協働で開催する音楽発表会の充実に努め、新たな市民文化の創造をはかってまいります。

高齢者教育につきましては、引き続き公民館事業として「もも倶楽部(高齢者学級)」を開設し、生きがいや健康をテーマに、保健行政など関係機関とも連携して、講座の充実に努めてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、貴重な動植物が生息する夕張岳の自然環境を守る活動、夕張の歴史を語る建造物や資料を守る活動などを関係行政機関や市民団体と連携し、情報の発信、啓発活動などに取り組んでまいります。また、小中学校において郷土学習を通して炭鉱の歴史などについて学ぶ機会を推進するとともに、夕張中学校に設置しております「ゆうばり歴史・教育資料室」については、引き続き広く市民の皆様などに公開してまいります。

「図書コーナー」につきましては、市民の身近な学習施設であることから、蔵書の充実に努めるとともに、図書貸出業務のほか、図書まつりの開催、読み聞かせ活動、巡回文庫、道立図書館の協力事業「学校ブックフェスティバル」の開催など、市民ボランティア組織などの協力をいただきながら、市民・子ども達のための読書活動を推進いたします。また、道立図書館な

どとの連携強化や、運営の効率化をはかる中で、利用者の利便性の向上に努めてまいります。清水沢地区公民館での図書の貸出しについては、配置図書数の増に努め、利便性の向上をはかってまいります。

美術館につきましては、「夕張市美術館の今後の在り方についての方針」に基づき、収蔵作品の適切な管理に努めるとともに、市民生活に「癒しと安らぎ、潤い」を提供できるよう、市内の公共施設などにおいて積極的な展示公開に努めてまいります。

また、文化団体の創作活動を活性化するため、発表や展示環境の充実に努めてまいります。

文化スポーツセンター、テニスコート、平和運動公園、清水沢プールについては、市民の利用にとどまらず、市外のスポーツ愛好者も利用する貴重な体育施設でもあることから、利用者への利便性を考慮し、必要な整備を行うとともに、創意工夫を重ね管理運営を行ってまいります。また、道内外の自治体と連携し施設利用の拡大をはかるとともに、子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる施設運営を進めてまいります。

指定管理などにより運営されている市民健康会館、南部市民体育館、市営球場、紅葉山パークゴルフ場、夕張岳ヒュッテにつきましては、地域の貴重な体育施設であることから、引き続

き指定管理者などと連携し、運営の円滑化と利用促進をはかってまいります。また、これら施設において開催されるスポーツ大会・イベント等の実施にあたっては、主催者や各種競技団体との連携をはかりながら、必要な支援協力を行うなど、体育・スポーツの振興と施設の有効活用を推進してまいります。

教育委員会といたしましては、どんな厳しい状況下にあっても、故郷夕張の自然・歴史や風土の上に立って、社会の変化に柔軟に対応しながら、力強く、心豊かに生きる子ども達を育てること、そして夕張市民が文化・芸術・スポーツに触れ、様々な活動を通して学習し、毎日の生活を健康で明るく楽しめるよう努力してまいります。

以上、平成 25 年度の教育行政執行方針について、その概要を申し上げましたが、市民の付託に応える教育の推進に誠心誠意努めてまいりますので、市議会並びに市民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。